



CLUSTERPRO X 5.1 for Windows

クラスタ構築コマンドリファレンスガイド

リリース 2

日本電気株式会社

2024 年 04 月 26 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	1
1.2	本書の構成	2
1.3	CLUSTERPRO マニュアル体系	3
1.4	本書の表記規則	4
1.5	最新情報の入手先	5
第 2 章	コマンドリファレンス	7
2.1	clpcfadm.py コマンド	7
2.2	clpencrypt コマンド	12
2.3	clpdiskctrl コマンド	13
第 3 章	クラスタを作成する	15
第 4 章	クラスタプロパティを設定する	17
4.1	基本情報	17
4.2	インタコネクト	18
4.3	フェンシング	22
4.4	タイムアウト	38
4.5	ポート番号	40
4.6	リカバリ	42
4.7	アラートサービス	45
4.8	WebManager	52
4.9	API	57
4.10	暗号化	60
4.11	アラートログ	61
4.12	遅延警告	62
4.13	ディスク	63
4.14	ミラーディスク	64
4.15	アカウント	67
4.16	RIP (互換)	68
4.17	JVM 監視	69
4.18	クラウド	73

4.19	統計情報	76
4.20	拡張	79
第 5 章	サーバを設定する	83
5.1	サーバを追加する	84
5.2	サーバ共通のパラメータを設定する	85
5.3	サーバのパラメータを設定する	86
5.4	サーバを削除する	92
第 6 章	グループを設定する	93
6.1	グループを追加する	94
6.2	グループ共通のパラメータを設定する	95
6.3	グループのパラメータを設定する	96
6.4	グループを削除する	104
第 7 章	グループリソースを設定する	105
7.1	アプリケーションリソース	105
7.2	AWS DNS リソース	119
7.3	AWS Elastic IP リソース	129
7.4	AWS セカンダリ IP リソース	138
7.5	AWS 仮想 IP リソース	148
7.6	Azure DNS リソース	158
7.7	Azure プローブポートリソース	169
7.8	CIFS リソース	178
7.9	ダイナミック DNS リソース	191
7.10	フローティング IP リソース	202
7.11	Google Cloud DNS リソース	212
7.12	Google Cloud 仮想 IP リソース	222
7.13	ハイブリッドディスクリソース	231
7.14	ミラーディスクリソース	246
7.15	Oracle Cloud 仮想 IP リソース	261
7.16	レジストリ同期リソース	270
7.17	スクリプトリソース	279
7.18	ディスクリソース	290
7.19	サービスリソース	299
7.20	仮想コンピュータ名リソース	310
7.21	仮想 IP リソース	320
第 8 章	モニタリソースを設定する	333
8.1	アプリケーション監視リソース	333
8.2	AWS AZ 監視リソース	341
8.3	AWS DNS 監視リソース	349

8.4	AWS Elastic IP 監視リソース	357
8.5	AWS セカンダリ IP 監視リソース	365
8.6	AWS 仮想 IP 監視リソース	373
8.7	Azure DNS 監視リソース	381
8.8	Azure ロードバランス監視リソース	389
8.9	Azure プロブポート監視リソース	397
8.10	CIFS 監視リソース	405
8.11	DB2 監視リソース	413
8.12	ダイナミック DNS 監視リソース	422
8.13	ディスク RW 監視リソース	429
8.14	フローティング IP 監視リソース	438
8.15	FTP 監視リソース	446
8.16	Google Cloud DNS 監視リソース	454
8.17	Google Cloud ロードバランス監視リソース	461
8.18	Google Cloud 仮想 IP 監視リソース	468
8.19	カスタム監視リソース	476
8.20	ハイブリッドディスクコネクタ監視リソース	485
8.21	ハイブリッドディスク監視リソース	491
8.22	HTTP 監視リソース	496
8.23	IMAP4 監視リソース	505
8.24	IP 監視リソース	513
8.25	JVM 監視リソース	521
8.26	ミラーディスク監視リソース	545
8.27	NIC Link Up/Down 監視リソース	550
8.28	外部連携監視リソース	558
8.29	マルチターゲット監視リソース	564
8.30	Oracle Cloud ロードバランス監視リソース	574
8.31	Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソース	581
8.32	ODBC 監視リソース	589
8.33	Oracle 監視リソース	597
8.34	WebOTX 監視リソース	608
8.35	POP3 監視リソース	616
8.36	PostgreSQL 監視リソース	624
8.37	プロセスリソース監視リソース	633
8.38	プロセス名監視リソース	642
8.39	レジストリ同期監視リソース	650
8.40	ディスク TUR 監視リソース	657
8.41	サービス監視リソース	665
8.42	SMTP 監視リソース	674
8.43	SQL Server 監視リソース	682
8.44	システム監視リソース	691

8.45	Tuxedo 監視リソース	702
8.46	ユーザ空間監視リソース	710
8.47	仮想コンピュータ名監視リソース	713
8.48	仮想 IP 監視リソース	720
8.49	WebSphere 監視リソース	727
8.50	WebLogic 監視リソース	735
第 9 章	パスワードを暗号化した文字列を取得する	747
9.1	Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する	748
9.2	clpencrypt コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する	749
第 10 章	注意・制限事項	751
第 11 章	免責・法的通知	753
11.1	免責事項	753
11.2	商標情報	754
第 12 章	改版履歴	755

第 1 章

はじめに

1.1 対象読者と目的

『CLUSTERPRO X クラスタ構築コマンドリファレンスガイド』は、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、クラスタ構成情報ファイル (clp.conf) をコマンドラインで生成する方法について記載しています。

1.2 本書の構成

- 「2. コマンドリファレンス」: クラスタ構成情報作成時に使用するコマンドの概要について説明します。
- 「3. クラスタを作成する」: クラスタの新規作成方法について説明します。
- 「4. クラスタプロパティを設定する」: クラスタプロパティの設定方法について説明します。
- 「5. サーバを設定する」: サーバの設定方法について説明します。
- 「6. グループを設定する」: グループの設定方法について説明します。
- 「7. グループリソースを設定する」: グループリソースの設定方法について説明します。
- 「8. モニタリソースを設定する」: モニタリソースの設定方法について説明します。
- 「9. パスワードを暗号化した文字列を取得する」: パスワード設定に必要な暗号化した文字列の取得方法について説明します。

1.3 CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』 (Maintenance Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO のメンテナンス関連情報を記載します。

1.4 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpcfadm.py add mon <モニタリソース種別> <モニタリソース名>

1.5 最新情報の入手先

最新の製品情報は、以下の Web サイトを参照ください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 2 章

コマンドリファレンス

2.1 clpcfadm.py コマンド

クラスタ構成情報ファイルの clp.conf を生成します。

コマンドライン

- clpcfadm.py {create} clustername charset [-e encode] [-s serveros]
- clpcfadm.py {add} srv servername priority
- clpcfadm.py {add} hba servername id portnumber deviceid instanceid
- clpcfadm.py {add} device servername type id info [extend]
- clpcfadm.py {add} forcestop env
- clpcfadm.py {add} hb lankhb deviceid priority
- clpcfadm.py {add} hb witnesshb deviceid priority host
- clpcfadm.py {add} np disknp deviceid priority extend
- clpcfadm.py {add} np pingnp deviceid priority groupid listid ipaddress
- clpcfadm.py {add} np httpnp deviceid priority [--host host]
- clpcfadm.py {add} np majonp deviceid priority
- clpcfadm.py {add} grp grouptype groupname
- clpcfadm.py {add} rsc groupname resourcetype resourcename
- clpcfadm.py {add} rscdep resourcetype resourcename dependresourcename
- clpcfadm.py {add} mon monitortype resourcename

- clpcfadm.py {del} srv servername
- clpcfadm.py {del} hba servername id
- clpcfadm.py {del} device servername id
- clpcfadm.py {del} forcestop
- clpcfadm.py {del} hb lankhb deviceid
- clpcfadm.py {del} hb witnesshb deviceid
- clpcfadm.py {del} np disknp deviceid
- clpcfadm.py {del} np pingnp deviceid
- clpcfadm.py {del} np httpnp deviceid
- clpcfadm.py {del} np majonp deviceid
- clpcfadm.py {del} grp groupname
- clpcfadm.py {del} rsc groupname resourcetype resourcename
- clpcfadm.py {del} rscdep resourcetype resourcename
- clpcfadm.py {del} mon monitortype resourcename
- clpcfadm.py {mod} -t [tagname] [--set parameter] [--delete] [--nocheck]

戻り値

0	成功
0 以外	異常

動作環境

ソフトウェア	Version	備考
Python	3.6.8 以上	

注意事項

- Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
- カレントディレクトリに clp.conf を配置した状態で実行してください。
- クラスタ構成情報ファイルのうち、clp.conf のみ作成します。

スクリプトリソース、カスタム監視リソースなどで使用するスクリプトファイルは手動で作成する必要があります。

例 フェイルオーバーグループ `failover1` に所属するスクリプトリソース `script1`、および カスタム監視リソース `genw1` のスクリプトを配置する場合

```
scripts
├─ failover1
│   └─ script1
│       ├── start.bat
│       └─ stop.bat
└─ monitor.s
    └─ genw1
        └─ genw.bat
```

- Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してグループリソースを追加した場合、自動的に追加されるモニタリソースがありますが、本コマンドでは自動的に追加しません。以下の表を参照し「追加が必要なモニタリソース」を追加してください。

グループリソース	追加が必要なモニタリソース
アプリケーションリソース	アプリケーション監視リソース
AWS DNS リソース	AWS AZ 監視リソース
AWS Elastic IP リソース	AWS Elastic IP 監視リソース
AWS 仮想 IP リソース	AWS 仮想 IP 監視リソース
Azure DNS リソース	Azure DNS 監視リソース
Azure プロブポートリソース	Azure ロードバランス監視リソース Azure プロブポート監視リソース
CIFS リソース	CIFS 監視リソース
ダイナミック DNS リソース	ダイナミック DNS 監視リソース
フローティング IP リソース	フローティング IP 監視リソース
Google Cloud 仮想 IP リソース	Google Cloud ロードバランス監視リソース Google Cloud 仮想 IP 監視リソース

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

グループリソース	追加が必要なモニタリソース
ハイブリッドディスクリソース	ハイブリッドディスクコネクタ監視リソース ハイブリッドディスク監視リソース
ミラーディスクリソース	ミラーディスク監視リソース
Oracle Cloud 仮想 IP リソース	Oracle Cloud ロードバランサ監視リソース Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソース
レジストリ同期リソース	レジストリ同期監視リソース
ディスクリソース	ディスク TUR 監視リソース
サービスリソース	サービス監視リソース
仮想コンピュータリソース	仮想コンピュータ監視リソース
仮想 IP リソース	仮想 IP 監視リソース

- クラスタ構成情報ファイルを稼働しているクラスタへ反映するには `clpcfctrl` コマンドを実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
'%1' is not found.	ファイル %1 が見つかりません。
The specified object does not exist. '%1'	指定したオブジェクト %1 は存在しません。
The specified element '%1' does not exist in '%2'.	指定した要素 %1 は %2 に存在しません。
The specified path does not exist in a config file.	指定したパスはクラスタ構成情報に存在しません。
Invalid config file. Use the 'create' option.	本コマンドの <code>create</code> オプションを実行してください。
The config file already exists.	クラスタ構成情報は既に存在しています。
Non-configurable elements specified.	設定可能なタグ名ではありません。
Invalid value specified. Specify as follows: <resource type>@<resource name>	<グループリソース種別>@<グループリソース名>の形式で指定してください。
Invalid path specified.	無効なパスが指定されています。
Cannot register a '%1' any more.	%1 は登録上限に達しています。
The following arguments are required :%1	%1 を指定してください。

次のページに続く

表 2.4 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Argument %1: allowed only with argument '%2'	%1 は %2 の時のみ有効なオプションです。
Argument %1: invalid choice: '%2' (choose from %3)	%1 に指定した %2 は無効な値です。%3 の選択肢から指定してください。
Argument %1: invalid value: '%2' (The value must be in the range [%3, %4])	%1 に指定した %2 は無効な値です。%3 から %4 の範囲の数値を指定してください。
Argument %1: invalid value: '%2' (The length must be less than %3)	%1 に指定した %2 は文字列が長すぎます。%3 以下の長さにしてください。
Argument %1: '%2' already exists.	%1 に %2 は既に存在しています。
Argument %1: '%2' does not exist.	%1 に %2 が存在しません。
Argument %1: cannot specify a dependency to the same object.	%1 は同じオブジェクトへの依存関係を指定しています。異なるオブジェクトを指定してください。
Argument %1: does not appear to be an IPv4.	%1 は無効な値です。IPv4 形式で指定してください。
Invalid value: '%1' (The value must be greater than 0)	%1 は無効な値です。0 以上の数値を指定してください。

2.2 clpencrypt コマンド

文字列を暗号化します。

コマンドライン

```
clpencrypt <パスワード (平文)>
```

戻り値

0	成功
0 以外	異常

実行例

- パスワード文字列を暗号化します。

```
実行: clpencrypt <パスワード (平文)>  
出力: <暗号化されたパスワード>
```

```
実行例: clpencrypt password  
出力例: 20220001111abaabdbb35c04
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。

2.3 clpdiskctrl コマンド

ドライブの GUID と HBA 情報を設定、取得します。

コマンドライン

```
clpdiskctrl {set|--set} filter <ドライブ文字>
clpdiskctrl {get|--get} guid <ドライブ文字>
clpdiskctrl {get|--get} hba <ドライブ文字>
```

戻り値

0	成功
0 以外	異常

実行例

- ドライブ指定して HBA のフィルターの設定を行います。

実行: `clpdiskctrl set filter <ドライブ文字>`

出力: `Command succeeded.`

実行例: `clpdiskctrl set filter R:\`

出力例: `Command succeeded.`

- ドライブ指定して GUID を取得します。

実行: `clpdiskctrl get guid <ドライブ文字>`

出力: `<GUID>`

実行例: `clpdiskctrl get guid R:\`

出力例: `b7131c40-1f5a-46d0-ab51-57af15478ba3`

- ドライブ指定して HBA 情報を取得します。

実行: `clpdiskctrl get hba <ドライブ文字>`

出力: `<ポート番号> <HBA デバイス ID> <HBA インスタンス ID>`

実行例: `clpdiskctrl get hba R:\`

出力例: `4 ROOT\ISCSIPRT 0000`

注意事項

Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Drive not found.	指定されたドライブが見つかりません。ドライブ指定に誤りが無いか確認してください。
Device no info.	デバイス情報の取得に失敗しました。ディスク装置が正常に動作しているか確認してください。
Specify the data drive.	Windows のシステムドライブ (通常は C:) 以外を指定してください。
Failed to set filter.	フィルターの設定に失敗しました。
Internal error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

第 3 章

クラスタを作成する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[クラスタプロパティを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
クラスタ名
言語
サーバ設定 ^{*1}
インタコネクト設定 ^{*2}
モニタリソース (ユーザ空間モニタ) 設定 ^{*3}

クラスタの作成

```
clpcfadm.py create <クラスタ名> <言語>
```

サーバ追加

```
clpcfadm.py add srv <サーバ名> <優先度>
```

インタコネクト (カーネルモード) 追加

```
clpcfadm.py add hb lankhb <デバイス ID> <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> lan <優先度> <IP アドレス>
```

モニタリソース (ユーザ空間モニタ: keepalive) 追加

```
clpcfadm.py add mon userw userw
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/target --set ""
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/relation/name --set LocalServer_
↪--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw/relation/type --set cls --nocheck
```

^{*1} 詳細は「[サーバを追加する](#)」を参照してください。

^{*2} 詳細は「[インタコネクト](#)」を参照してください。

^{*3} 詳細は「[ユーザ空間監視リソースを追加する](#)」を参照してください。

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

第 4 章

クラスタプロパティを設定する

4.1 基本情報

- クラスタ名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/name --set <クラスタ名>
```

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

- 言語

言語	設定値
英語	ASCII
日本語	SJIS
中国語	GB2312

```
clpcfadm.py mod -t all/charset --set <設定値>
```

4.2 インタコネクト

ハートビート I/F

追加する

重要: 1 つ以上の LAN ハートビート (カーネルモード) 設定が必要です。

注釈:

ハートビート I/F が 1 つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

ハートビート I/F が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

カーネルモード

```
clpcfadm.py add hb lankhb <デバイス ID> <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> lan <デバイス ID> <IP アドレス>
```

注釈:

LAN ハートビート (カーネルモード) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

LAN ハートビート (カーネルモード) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

Witness

```
clpcfadm.py add hb witnesshb <Witness デバイス ID> <優先度> <IP アドレス :  
ポート番号>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> witness <デバイス ID> <使用可否> <IP アド  
レス : ポート番号>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

Witness が 1 つの場合は、Witness デバイス ID に 0 を指定してください。

Witness が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/ssl/use_
↪--set <設定値>
```

- Proxy を使用する

Proxy を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/proxy/use_
↪--set <設定値>
```

- HTTP タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t heartbeat/witnesshb@witnesshb1/http_timeout_
↪--set <設定値>
```

MDC 設定

ミラー通信専用を含む MDC の設定する場合は以下を設定してください。

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> mdc <デバイス ID> <IP アドレス>
```

注釈:

MDC が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

MDC が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

カーネルモード

```
clpcfadm.py del hb lankhb <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

Witness

```
clpcfadm.py del hb witnesshb <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +700 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add hb witnesshb 0 <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> witness 0 <使用可否> <ターゲット IP アドレス:ポート番号>
```

削除

```
clpcfadm.py del hb witnesshb 700
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 700
```

MDC 設定

ミラー通信専用を含む MDC の設定を削除する場合は以下を設定してください。

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +400 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> mdc 0 <IP アドレス>
```

削除

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 400
```

サーバダウン通知

- サーバダウン通知

サーバダウン通知	設定値
通知する (既定値)	1
通知しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/downnotify --set <設定値>
```

詳細設定 (サーバダウン通知)

- サーバリセット通知

サーバリセット通知	設定値
通知する	1

次のページに続く

表 4.5 – 前のページからの続き

サーバリセット通知	設定値
通知しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/use --set <設定値>
```

注釈: 「サーバダウン通知」の設定が「通知する」の場合に設定してください。

* サーバ生存確認を実行する

サーバ生存確認を実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/precheck/use --set  
→ <設定値>
```

注釈: 「サーバリセット通知」の設定が「通知する」の場合に設定してください。

・ タイムアウト (秒)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dyingnotify/precheck/ping/  
→ timeout --set <設定値>
```

注釈: 「サーバ生存確認を実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

4.3 フェンシング

4.3.1 NP 解決

追加する

注釈:

NP 解決が 1 つの場合は、優先度に 0 を指定してください。

NP 解決が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

DISK

```
clpcfadm.py add np disknp <デバイス ID> <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> disknp <デバイス ID> <ボリューム ID> <デバイス  
パス>
```

注釈:

NP 解決 (DISK) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (DISK) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- IO 待ち時間 (秒)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/disknp@<disknp 名 (disknp1)>/  
→iotimeout --set <設定値>
```

監視

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/disknp@<disknp 名  
(disknp1)>/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/disknp@<disknp 名  
(disknp1)>/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/disknp@<disknp 名
(disknp1)>/count --set <設定値>
```

Ping

clpcfset add np pingnp <デバイス ID> <優先度> <グループ ID> <リスト ID> <IP アドレス>

clpcfadm.py add device <サーバ名> ping <デバイス ID> <使用可否>

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

NP 解決 (Ping) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (Ping) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

グループが 1 つの場合は、グループ ID に 0 を指定してください。

グループが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

同一グループ内で IP アドレスが 1 つの場合は、リスト ID に 0 を指定してください。

同一グループ内で IP アドレスが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

詳細設定

注釈: ハートビートタイムアウトは以下の計算式を満たすように設定する必要があります。

ハートビートタイムアウト > Ping NP インターバル × Ping NP リトライ + Ping NP タイムアウト

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:2, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/
interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/  
↪timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/pingnp@<pingnp 名 (pingnp1)>/  
↪count --set <設定値>
```

HTTP

```
clpcfadm.py add np httpnp <デバイス ID> <優先度> --host <IP アドレス:ポート番号>  
>  
clpcfadm.py add device <サーバ名> http <デバイス ID> <使用可否>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

NP 解決 (HTTP) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (HTTP) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: Witness HB リソースの設定を使用する場合は、以下を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/  
↪witnesshb/use --set 1
```

- ターゲットホスト (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/  
↪host --set <ターゲットホスト>
```

- サービスポート

既定値:80 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/  
↪port --set <設定値>
```

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↪ssl/use --set <設定値>
```

- Proxy を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↪proxy/use --set <設定値>
```

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↪interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:20 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↪timeout --set <設定値>
```

- HTTP タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t networkpartition/httpnp@<httpnp 名 (httpnp1)>/
↪http_timeout --set <設定値>
```

多数決

```
clpcfadm.py add np majonp <デバイス ID> <優先度>
clpcfadm.py add device <サーバ名> majo <デバイス ID> <使用可否>
```

注釈: 使用可否は、使用する場合に 1、使用しない場合に 0 を設定してください。

注釈:

NP 解決 (多数決) が 1 つの場合は、デバイス ID に 0 を指定してください。

NP 解決 (多数決) が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

DISK

```
clpcfadm.py del np disknp <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10100 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add np disknp 0 <優先度>
clpcfadm.py add device <サーバ名> disknp 0 <ボリューム ID> <デバイスパス>
```

削除

```
clpcfadm.py del np disknp 10100
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10100
```

Ping

```
clpcfadm.py del np pingnp <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10200 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add np pingnp 0 <優先度> <グループ ID> <リスト ID> <IP アドレス>
clpcfadm.py add device <サーバ名> ping 0 <使用可否>
```

削除

```
clpcfadm.py del np pingnp 10200
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10200
```

HTTP

```
clpcfadm.py del np httpnp <デバイス ID>
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10700 した値を指定してください。

さい。

追加

```
clpcfadm.py add np httpnp 0 <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> http 0 <使用可否>
```

削除

```
clpcfadm.py del np httpnp 10700
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10700
```

多数決

```
clpcfadm.py del np majonp <デバイス ID>
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> <デバイス ID>
```

重要: デバイス ID は、本章の「追加する」で指定したデバイス ID に +10300 した値を指定してください。

追加

```
clpcfadm.py add np majonp 0 <優先度>
```

```
clpcfadm.py add device <サーバ名> majo 0 <使用可否>
```

削除

```
clpcfadm.py del np majonp 10300
```

```
clpcfadm.py del device <サーバ名> 10300
```

調整

- NP 発生時動作

NP 発生時動作	設定値
クラスタサービス停止	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	3
クラスタサービス停止と OS 再起動	4
緊急シャットダウン (既定値)	2
意図的なストップエラーの発生	5
HW リセット	6

```
clpcfadm.py mod -t cluster/networkpartition/npaction --set <設定値>
```

4.3.2 強制停止

注釈: 強制停止を設定する場合は、サーバを 2 台以上設定してください。

追加する

BMC

```
clpcfadm.py add forcestop bmc
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/ip --set
↳ <IP アドレス> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/user
↳ --set <ユーザ名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/password
↳ --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/
↳ ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/
↳ user --set <ユーザ名> --nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/server@<サーバ名>/parameters/
↳ password --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

強制停止

- 強制停止アクション

強制停止アクション	設定値
BMC パワーオフ (既定値)	poweroff

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

強制停止アクション	設定値
BMC パワーサイクル	powercycle
BMC パワーリセット	reset
BMC NMI	nmi

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「BMC パワーオフ」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:15 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「BMC パワーサイクル」「BMC リセット」「BMC NMI」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/bmc/suppression --set <設定値>
```

vCenter

```
clpcfadm.py add forcestop vcenter
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/ip --set <ホスト名>
→--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/user --set <ユーザ名>
--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/password --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/method --set <強制停止実
```

行方法>

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/
↳vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/
↳datacenter --set <データセンタ名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/
↳commandpath --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/parameters/
↳perlpath --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/use --set 1
↳--nocheck
```

サーバー一覧

- 仮想マシン名 (80 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/
↳parameters/vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
```

- データセンタ名 (80 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/
↳parameters/datacenter --set <データセンタ名> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

強制停止アクション	設定値
パワーオフ (既定値)	poweroff
リセット	reset

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/action --set
↳<設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「パワーオフ」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:10 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「リセット」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/suppression --set <設定値>
```

vCenter

- 強制停止実行方法

強制停止実行方法	設定値
vSphere Automation API (既定値)	restapi
VMware vSphere CLI	vcli

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/method --set  
→<設定値>
```

- VMware vSphere CLI インストールパス (1023 バイト以内)

VMware vSphere CLI インストールパス
C:\Program Files (x86)\VMware\VMware vSphere CLI
C:\Program Files\VMware\VMware vSphere CLI

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバー名>/  
→parameters/commandpath --set <VMware vSphere CLI インストールパス> --nocheck
```

注釈: 「強制停止実行方法」の設定が「VMware vSphere CLI」の場合に設定してください。

注釈: 設定するサーバに全て同じパスを設定してください。

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

- ホスト名 (255 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/ip --set <ホスト名> --nocheck`
- ユーザ名 (255 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/user --set
↳ <ユーザ名> --nocheck`
- パスワード (255 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/parameters/password_↳
↳ --set <暗号化されたパスワード> --nocheck`

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- Perl パス (255 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/vcenter/server@<サーバ名>/
↳ parameters/perlpath --set <Perl パス> --nocheck`

注釈: 「強制停止実行方法」の設定が「VMware vSphere CLI」の場合に設定してください。

AWS

```
clpcfadm.py add forcestop aws
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/parameters/id --set
↳ <インスタンス ID> --nocheck
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- インスタンス ID(31 バイト以内)
`clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/server@<サーバ名>/parameters/
↳ id --set <インスタンス ID> --nocheck`

強制停止

- 強制停止アクション

設定値
stop (既定値)
reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/aws/suppression --set <設定値>
```

Azure

```
clpcfadm.py add forcestop azure
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/useruri --set <ユーザ URI> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/tenantid --set <テナント ID> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/certfile --set <サービスプリンシパルのファイルパス> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/rscgrp --set <リソースグループ名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバ名>/parameters/vmname_ --set <仮想マシン名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバー名>/use --set 1
↪--nocheck
```

サーバー一覧

- 仮想マシン名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/server@<サーバー名>/
↪parameters/vmname --set <仮想マシン名> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

設定値
stop (既定値)
reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/action --set <設定値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/suppression --set <設定値>
```

Azure

- ユーザ URI(2048 バイト以内)


```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/useruri --set
↪ <ユーザ URI> --nocheck
```

- テナント ID(36 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/tenantid --set
↪ <テナント ID> --nocheck
```

- サービスプリンシパルのファイルパス (1024 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/certfile --set
↪ <サービスプリンシパルのファイルパス> --nocheck
```

- リソースグループ名 (90 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/azure/parameters/rscgrp --set <リ
ソースグループ名> --nocheck
```

OCI

```
clpcfadm.py add forcestop oci
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/parameters/id --set
↪ <インスタンス ID> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/use --set 1 --nocheck
```

サーバー一覧

- インスタンス ID(31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/server@<サーバ名>/parameters/
↪ id --set <インスタンス ID> --nocheck
```

強制停止

- 強制停止アクション

設定値
stop (既定値)
reboot

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/parameters/action --set <設定
値>
```

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:15 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/wait/timeout --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「stop」の場合に設定してください。

- 停止要求後のフェイルオーバー開始までの猶予時間 (秒)

既定値:120 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/wait/fodelay --set <設定値>
```

注釈: 「強制停止アクション」の設定が「reboot」の場合に設定してください。

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/oci/suppression --set <設定値>
```

カスタム

```
clpcfadm.py add forcestop custom
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set forcestop.
```

```
↪bat
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/account --set ""
```

```
↪--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/server@<サ ー バ 名>/use --set 1
```

```
↪--nocheck
```

強制停止

- 強制停止タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/exec/timeout --set <設定値>
```

- 停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する

停止失敗時にグループのフェイルオーバーを抑制する	設定値
抑制する	1
抑制しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/suppression --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/default --set
```

↪ <設定値>

注釈: 本パラメータを変更する場合、「パス」を変更してください。

- パス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set <パス>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **forcestop.bat** を指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/path --set ↪  
↪ forcestop.bat
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t forcestop/custom/parameters/account --set  
↪ <実行ユーザ>
```

削除する (使用しない)

```
clpcfadm.py del forcestop
```

4.4 タイムアウト

- サービス起動遅延時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/startupdelay --set <設定値>
```

- ネットワーク初期化完了待ち時間 (秒)

既定値:180 (最小値:0, 値:5940)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/networkcheck --set <設定値>
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 同期待ち時間 (秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:5940)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/bootwait --set <設定値>
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

ハートビート

- インターバル (ミリ秒)

既定値:3000 (最小値:1000, 最大値:99000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/interval --set <設定値>
```

注釈: ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- タイムアウト (ミリ秒)

既定値:30000 (最小値:2000, 最大値:999000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/timeout --set <設定値>
```

注釈: ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- 内部通信タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/timeout --set <設定値>
```

4.5 ポート番号

TCP

- 内部通信ポート番号

既定値:29001 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/port --set <設定値>
```

- Information Base ポート番号

既定値:29008 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/api/ibport --set <設定値>
```

- データ転送ポート番号

既定値:29002 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trns/port --set <設定値>
```

- WebManager HTTP ポート番号

既定値:29003 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/http/port --set <設定値>
```

- API HTTP ポート番号

既定値:29009 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rstd/http/port --set <設定値>
```

- API 内部通信ポート番号

既定値:29010 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rstd/service/port --set <設定値>
```

- ディスクエージェントポート番号

既定値:29004 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/port --set <設定値> --nocheck
```

- ミラードライバポート番号

既定値:29005 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t diskfltr/port --set <設定値> --nocheck
```

UDP

- カーネルモードハートビートポート番号

既定値:29106 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/khbport/recv --set <設定値>
```

- アラート同期ポート番号

既定値:29003 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/udpport --set <設定値>
```

4.6 リカバリ

- クラスタサービスのプロセス異常時動作

クラスタサービスのプロセス異常時動作	設定値
緊急シャットダウン (既定値)	5
意図的なストップエラーの発生	6
HW リセット	7

```
clpcfadm.py mod -t pm/exec0/recover --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t pm/exec1/recover --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

HA プロセス異常時動作

- プロセス起動リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t rm/agent/retrynum --set <設定値>
```

- リトライオーバー時の動作

リトライオーバー時の動作	設定値
何もしない (既定値)	1
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

```
clpcfadm.py mod -t rm/agent/action --set <設定値>
```

- グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作

グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作	設定値
緊急シャットダウン (既定値)	5
意図的なストップエラーの発生	6
何もしない (活性/非活性異常として扱う)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rsctimeout/rsctoaction --set <設定値>
```


異常検出時の OS 停止を伴う最終動作を抑制する

- グループリソースの活性異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/rscact --set <設定値>
```

- グループリソースの非活性異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/rscdeact --set <設定値>
```

- モニタリソースの異常検出時

他のサーバが全て停止している時に OS 停止を伴う最終動作を行わない	設定値
最終動作を行う	1
最終動作を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/survive/monitor --set <設定値>
```

両系活性検出時のシャットダウンを抑制する

- 両系活性検出時にシャットダウンしないサーバグループ

両系活性検出時にシャットダウンしないサーバグループ	設定値
シャットダウンする (既定値)	0
シャットダウンしない	1

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/survive --set <設定値>
```

- 両系活性検出時にシャットダウンしないサーバ

両系活性検出時にシャットダウンしないサーバ	設定値
シャットダウンする (既定値)	0

次のページに続く

表 4.31 – 前のページからの続き

両系活性検出時にシャットダウンしないサーバ	設定値
シャットダウンしない	1

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/survive --set <設定値>
```

4.7 アラートサービス

- アラート通報設定を有効にする

アラート通報設定を有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/messages/use --set <設定値>
```

追加する

注釈: 「モジュールタイプ」「イベント ID」の詳細は『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の「エラーメッセージ一覧」の「イベントログ、アラートメッセージ」を参照してください。

– 送信先

アラート通報	設定値
設定する	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t messages/types@<モジュールタイプ> --set ""
→--nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/syslog
→--set <設定値 (送信先 (System Log))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/alert
→--set <設定値 (送信先 (Alert Logs))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/mail
→--set <設定値 (送信先 (Mail Report))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/trap
→--set <設定値 (送信先 (SNMP Trap))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/pubsub
→--set <設定値 (送信先 (Message Topic))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/altexec
→--set <設定値 (送信先 (Alert Extension))> --nocheck
```

注釈: 一部の送信先を変更する場合でも上記の通り、全ての送信先に対して設定してくだ

さい。

– コマンド (511 バイト以内)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/cmd@<コマンド ID>/cmdline --set <コマンド> --nocheck
```

注釈: 「送信先 (Alert Extension)」が「設定する」の場合に設定してください。

注釈:

コマンドが 1 つの場合は、コマンド ID に 0 を指定してください。

コマンドが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

```
clpcfset del clsparam messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>/  
→cmd@<コマンド ID>
```

削除する

```
clpcfset del clsparam messages/<モジュールタイプ>@<イベント ID>  
clpcfadm.py mod -t messages/types@<モジュールタイプ> --delete
```

メール通報

- メールアドレス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/address --set <メールアドレス>
```

- 件名 (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/subject --set <件名>
```

- メール送信方法

設定値
SMTP (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/sendtype --set <設定値>
```

SMTP 設定

- メール送信文書の文字コード (127 バイト以内)

メール送信文書の文字コード
Shift_JIS
ISO-2022-jp
ISO-8859-1

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/charset --set <メール送信文書の文字コード> --nocheck
```

- 通信応答待ち時間 (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/timeout --set <設定値>
```

- 件名のエンコードをする

件名のエンコードをする	設定値
エンコードをする	1
エンコードをしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/subencode --set <設定値>
```

SMTP サーバ

追加する

注釈:

SMTP サーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

SMTP サーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 優先順位

既定値:なし (最小値:0, 最大値:SMTP サーバ数-1)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/priority_
→--set <設定値> --nocheck
```

- SMTP サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/srvname_
→--set <SMTP サーバ> --nocheck
```

- SSL を使用する

SSL を使用する	設定値
使用する	1
使用しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/ssl/use_
↪--set <設定値> --nocheck
```

- 接続方法

設定値
SMTPS
STARTTLS

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/ssl/method_
↪--set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「SSL を使用する」の設定が「使用する」の場合に設定してください。

- SMTP ポート番号

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/port --set
↪<設定値> --nocheck
```

- 差出人メールアドレス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/
↪senderaddress --set <差出人メールアドレス> --nocheck
```

- SMTP 認証を有効にする

SMTP 認証を有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/auth --set
↪<設定値> --nocheck
```

注釈: 「SMTP 認証を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- 認証方式

設定値
CRAM-MD5
LOGIN
PLAIN

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/authmethod_
↪--set <設定値> --nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/username_
↪--set <ユーザ名> --nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID>/passwd_
↪--set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/mail/smtp/smtpsrv@<ID> --delete
```

SNMP トラップ

送信先設定

注釈:

SNMP トラップの送信先サーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

SNMP トラップの送信先サーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/srvname --set <送信先サー
バ> --nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/port --set <SNMP ポート番
号> --nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpver --set <SNMP バー
ジョン> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpcom --set <SNMP コミ  
ュニティ名> --nocheck
```

- 送信先サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/srvname --set <送信  
先サーバ> --nocheck
```

- SNMP ポート番号

既定値:162 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/port --set <設定値>  
--nocheck
```

- SNMP バージョン

設定値
v1
v2c (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpver --set <設定  
値> --nocheck
```

- SNMP コミュニティ名 (255 バイト以内)

SNMP コミュニティ名
public (既定値)
private

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID>/snmpcom --set  
→<SNMP コミュニティ名> --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/trap/snmpsrv@<ID> --delete
```

- ネットワーク警告灯を使用する

ネットワーク警告灯を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/dn1000s/use --set <設定値>
```

重要: サーバプロパティの「警告灯」を設定してください。

注釈: 「使用する」場合は、以下を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t alertservice/types@dn1000s --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1 --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/priority --set 0_
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/device --set_
↪20000 --nocheck
clpcfadm.py mod -t alertservice/dn1000s@dn1000s1/kind --set nm_
↪--nocheck
```

注釈: 「ネットワーク警告灯を使用する」の設定を「使用する」から「使用しない」に変更する場合は、以下を設定してください。

```
clpcfset del clsparam alertservice
```

4.8 WebManager

- WebManager サービスを有効にする

WebManager サービスを有効にする	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/use --set <設定値>
```

注釈: 「WebManager サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- 通信方式

通信方式	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/method --set <設定値>
```

重要: 「通信方式」の設定が「HTTPS」の場合、「暗号化」を設定してください。

- 同時接続セッション数

既定値:64 (最小値:10, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/maxclient --set <設定値>
```

パスワードによって接続を制御する

- パスワード方式

パスワード方式	設定値
クラスタパスワード方式 (既定値)	0
OS 認証方式	1

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/use --set <設定値>
```

クラスタパスワード方式

注釈: 「パスワード方式」の設定が「クラスタパスワード方式」の場合に設定してください。

– 操作用パスワード

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/userpwd --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

– 参照用パスワード

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/adminpwd --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

OS 認証方式

注釈: 「パスワード方式」の設定が「OS 認証方式」の場合に設定してください。

– 権限を与えるグループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/grouplist/  
→ope@<グループ名> --set "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名> --delete
```

– ログインセッションの有効時間 (分)

既定値:1440 (最小値:0, 最大値:525600)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/duration --set
➡ <設定値>
```

– 自動ログアウト時間 (分)

既定値:60 (最小値:0, 最大値:99999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/autologout/
➡ time --set <設定値>
```

– ロックアウトのしきい値 (回)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/failure/count
➡ --set <設定値>
```

– ロックアウト期間 (分)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:99999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/loginuser/failure/
➡ duration --set <設定値>
```

- クライアント IP アドレスによって接続を制御する

クライアント IP アドレスによって接続を制御する	設定値
制御する	1
制御しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/iprest --set <設定値>
```

注釈: 「クライアント IP アドレスによって接続を制御する」の設定が「制御する」の場合に設定してください。

追加する

– IP アドレス (操作権あり)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ip@<IP アドレス>
--set "" --nocheck
```

– IP アドレス (操作権なし)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
--set "" --nocheck
```

削除する

– IP アドレス (操作権あり)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ip@<IP アドレス>
--delete
```

– IP アドレス (操作権なし)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
--delete
```

```
ス> --delete
```

Cluster WebUI 操作ログ

- Cluster WebUI の操作ログを出力する

Cluster WebUI の操作ログを出力する	設定値
出力する (既定値)	1
出力しない	0

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/use --set <設定値>
```

- ログ出力先（省略時、既定のログディレクトリに出力します）(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/path --set <ログ出力先>
```

注釈: 「Cluster WebUI の操作ログを出力する」の設定が「出力する」場合に設定してください。

- ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logopeuser/size --set <設定値>
```

注釈: 「Cluster WebUI の操作ログを出力する」の設定が「出力する」場合に設定してください。

統合 WebManager

接続用 IP アドレス

追加する

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID>/type --set public_
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID>/info --set <IP アドレス>
> --nocheck
```

注釈:

追加する IP アドレスが 1 つの場合は、ID に 100 を指定してください。

追加する IP アドレスが複数の場合は、100, 101, 102 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:199)

削除する

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/device@<ID> --delete
```

調整

- クライアントセッションタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/timeout --set <設定値>
```

- 画面データ更新インターバル (秒)

既定値:90 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/client/pollinginterval --set <設定値>
```

- ミラーエージェントタイムアウト (秒)

既定値:150 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/mdagenttimeout --set <設定値>
```

- ログファイルダウンロード有効期限 (秒)

既定値:600 (最小値:60, 最大値:43200)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/logc/timeout/getfile --set <設定値>
```

- 時刻情報表示機能を使用する

時刻情報表示機能を使用する	設定値
使用する (既定値)	1
使用しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/timeinfo/use --set <設定値>
```

4.9 API

- API サービスを有効にする

API サービスを有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/use --set <設定値> --nocheck
```

重要: 「API サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合、「暗号化」を設定してください。

注釈: 「API サービスを有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

– 通信方式

通信方式	設定値
HTTP	0
HTTPS (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/server/encryption/method --set <設定値>
--nocheck
```

– グループ単位で権限を設定する

グループ単位で権限を設定する	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rstcd/security/loginuser/use --set <設定値>
--nocheck
```

注釈: 「グループ単位で権限を設定する」の設定が「設定する」場合に設定してください。

追加する

- * 操作権あり

```
clpcfadm.py mod -t rstdd/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名> --set "" --nocheck
```

* 操作権なし

```
clpcfadm.py mod -t rstdd/security/loginuser/grouplist/ref@<グループ名> --set "" --nocheck
```

削除する

* 操作権あり

```
clpcfset del clsparm rstdd/security/loginuser/grouplist/ope@<グループ名>
```

* 操作権なし

```
clpcfset del clsparm rstdd/security/loginuser/grouplist/ref@<グループ名>
```

– クライアント IP アドレスによって接続を制御する

クライアント IP アドレスによって接続を制御する	設定値
制御する	1
制御しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rstdd/security/clientlist/iprest --set <設定値> --nocheck
```

接続を許可するクライアント IP アドレス

注釈: 「クライアント IP アドレスによって接続を制御する」の設定が「制御する」の場合に設定してください。

追加する

– IP アドレス (操作権あり)

```
clpcfadm.py mod -t rstdd/security/clientlist/ip@<IP アドレス> --set "" --nocheck
```

– IP アドレス (操作権なし)

```
clpcfadm.py mod -t rstdd/security/clientlist/ipro@<IP アドレス> --set "" --nocheck
```

削除する

– IP アドレス (操作権あり)


```
clpcfset del clsparam rstd/security/clientlist/ip@<IP アドレス>  
>  
- IP アドレス (操作権なし)  
clpcfset del clsparam rstd/security/clientlist/ipro@<IP アドレス>
```

調整

- 認証ロックアウトのしきい値 (回)
既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)
clpcfadm.py mod -t rstd/security/authretry --set <設定値>
→--nocheck
- HTTP サーバ起動リトライ回数
既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)
clpcfadm.py mod -t rstd/communication/http/retry --set <設定値>
→--nocheck
- HTTP サーバ起動インターバル (秒)
既定値:5 (最小値:1, 最大値:99)
clpcfadm.py mod -t rstd/communication/http/interval --set <設定値> --nocheck

4.10 暗号化

- 証明書ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/crtfile --set <証明書ファイル>
```

- 秘密鍵ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/keyfile --set <秘密鍵ファイル>
```

- SSL ライブラリ (1023 バイト以内)

SSL ライブラリ
C:\OpenSSL-Win64\ssleay32.dll
C:\Program Files\OpenSSL-Win64\libssl-1_1-x64.dll
C:\Program Files\OpenSSL-Win64\libssl-3-x64.dll

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/ssllib --set <SSL ライブラリ>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

- Crypto ライブラリ (1023 バイト以内)

Crypto ライブラリ
C:\OpenSSL-Win64\libeay32.dll
C:\Program Files\OpenSSL-Win64\libcrypto-1_1-x64.dll
C:\Program Files\OpenSSL-Win64\libcrypto-3-x64.dll

```
clpcfadm.py mod -t webmgr/server/encryption/cryptolib --set <Crypto ライ  
ブラリ>
```

注釈: インストールフォルダなど環境に応じて設定してください。

4.11 アラートログ

- アラートサービスを有効にする

アラートサービスを有効にする	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t webalert/use --set <設定値>
```

- 保存最大アラートレコード数

既定値:10000 (最小値:1, 最大値:99999)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/main/alertlog/maxrecordcount --set <設定値>
```

アラート同期

- 方法

方法	設定値
unicast (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/method --set <設定値>
```

- 通信タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:300)

```
clpcfadm.py mod -t webalert/daemon/timeout --set <設定値>
```

4.12 遅延警告

- ハートビート遅延警告 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/heartbeat --set <設定値>
```

注釈: 「ハートビート遅延警告」を「設定しない」場合は、100 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/heartbeat --set 100
```

- モニタ遅延警告 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/monitor --set <設定値>
```

注釈: 「モニタ遅延警告」を「設定しない」場合は、100 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t cluster/delaywarn/monitor --set 100
```

4.13 ディスク

ディスク切断失敗時

- リトライインターバル (秒)

既定値:3 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactsd/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

- リトライ回数

既定値:10 (最小値:0, 最大値:180)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactsd/retry --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「リトライ回数」の設定を「無限」に設定する場合は、65535 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactsd/retry --set 65535 --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactsd/timeout --set <設定値> --nocheck
```

- 最終動作

最終動作	設定値
強制切断する (既定値)	1
強制切断しない	0

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactsd/action --set <設定値> --nocheck
```

4.14 ミラーディスク

- 自動ミラー初期構築

自動ミラー初期構築	設定値
自動ミラー初期構築する (既定値)	1
自動ミラー初期構築しない	0

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/autofullcopy --set <設定値> --nocheck
```

- 自動ミラー復帰

自動ミラー復帰	設定値
自動ミラー復帰する (既定値)	1
自動ミラー復帰しない	0

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/autorecovery --set <設定値> --nocheck
```

- 差分ビットマップサイズ (KB)

既定値:1024 (最小値:1024, 最大値:5120)

```
clpcfadm.py mod -t diskfltr/cpbitmapsize --set <設定値> --nocheck
```

注釈: KB(1024 で割り切れる値) で設定してください。

- 非同期モードでの履歴記録領域サイズ (KB)

既定値:102400 (最小値:1024, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t diskfltr/cphistorysize --set <設定値> --nocheck
```

注釈: KB(1024 で割り切れる値) で設定してください。

- ミラーブレイク状態でのフェイルオーバを指定した時間許容する

ミラーブレイク状態でのフェイルオーバを指定した時間許容する	設定値
許容する	1
許容しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/foaccept/use --set <設定値> --nocheck
```

– タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/foaccept/timeout --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: 「ミラーブレイク状態でのフェイルオーバを指定した時間許容する」の設定が「許容する」場合に設定してください。

ディスク切断失敗時

- リトライインターバル (秒)

既定値:3 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactmd/interval --set <設定値>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t diskagent/deacthd/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- リトライ回数

既定値:10 (最小値:0, 最大値:180)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactmd/retry --set <設定値> --nocheck
clpcfadm.py mod -t diskagent/deacthd/retry --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「リトライ回数」の設定を「無限」に設定する場合は、65535 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactmd/retry --set 65535 --nocheck
clpcfadm.py mod -t diskagent/deacthd/retry --set 65535 --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactmd/timeout --set <設定値> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t diskagent/deacthd/timeout --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
強制切断する (既定値)	1
強制切断しない	0

```
clpcfadm.py mod -t diskagent/deactmd/action --set <設定値> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t diskagent/deacthd/action --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

4.15 アカウント

注釈:

アカウントが1つの場合は、ID に 0 を指定してください。

アカウントが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/account/list@<ID>/username --set <ユ ー ザ 名>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/account/list@<ID>/password --set <暗号化されたパスワード> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/account/list@<ID> --delete
```

4.16 RIP（互換）

注釈:

ネットワークアドレスが1つの場合は、ID に 0 を指定してください。

ネットワークアドレスが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rip/list@<ID>/ip --set <ネットワークアドレス>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t cluster/rip/list@<ID>/mask --set <ネットマスク> --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/rip/list@<ID> --delete
```

4.17 JVM 監視

- Java インストールパス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t jra/path/java --set <Java インストールパス> --nocheck
```

- 最大 Java ヒープサイズ (MB)

既定値:16 (最小値:7, 最大値:4096)

```
clpcfadm.py mod -t jra/javaopt/xmx --set <設定値> --nocheck
```

- Java VM 追加オプション (1024 バイト以内)

```
clpcfset add clsparam jra/javaopt/javaoptex <Java VM追加オプション>
```

注釈: Java VM 追加オプションの先頭文字には "-" (ハイフン) を指定してください。

ログ出力設定

- ログレベル

設定値
DEBUG
INFO (既定値)
WARN
ERROR
FATAL

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/level --set <設定値> --nocheck
```

- 保持する世代数 (世代)

既定値:10 (最小値:2, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/count --set <設定値> --nocheck
```

ローテーション方式

- ローテーション方式

ローテーション方式	設定値
ファイルサイズ (既定値)	1
時間	2

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/rotation/common --set <設定値>
↪--nocheck
```

- 最大サイズ (KB)

既定値:3072 (最小値:200, 最大値:2097151)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/maxsize --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「ローテーション方式」の設定が「ファイルサイズ」の場合に設定してください。

- 開始時刻

既定値:00:00 (00:00 ~ 23:59)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/timerotation/point --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: 「ローテーション方式」の設定が「時間」の場合に設定してください。

- インターバル (時間)

既定値:24 (最小値:1, 最大値:8784)

```
clpcfadm.py mod -t jra/log/timerotation/interval --set <設定値>
--nocheck
```

注釈: 「ローテーション方式」の設定が「時間」の場合に設定してください。

リソース計測設定

共通

- リトライ回数

既定値:10 (最小値:1, 最大値:1440)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 異常判定しきい値 (回)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t jra/change/count --set <設定値> --nocheck
```

インターバル

- メモリ使用量・動作スレッド数 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/interval/value --set <設定値>
--nocheck
```

- Full GC 発生回数・実行時間 (秒)

既定値:120 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/measure/interval/gc --set <設定値>
↪--nocheck
```

WebLogic

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 異常判定しきい値 (回)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/change/count --set <設定値>
↪--nocheck
```

インターバル

- リクエスト数 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/measure/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

- 平均値 (秒)

既定値:300 (最小値:15, 最大値:600)

```
clpcfadm.py mod -t jra/wl/queue/average/interval --set <設定値>
↪--nocheck
```

注釈: 平均値計測のインターバルはリクエスト数の計測インターバルに対して整数倍の数値を入力してください。

接続設定

- 管理ポート番号

既定値:25500 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t jra/admin/port --set <設定値> --nocheck
```

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t jra/connect/retry --set <設定値> --nocheck
```

- 再接続までの待ち時間 (秒)

既定値:60 (最小値:15, 最大値:60)

```
clpcfadm.py mod -t jra/connect/wait --set <設定値> --nocheck
```

- コマンドタイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:30, 最大値:300)

```
clpcfadm.py mod -t jra/action/wait --set <設定値> --nocheck
```

4.18 クラウド

Amazon SNS

- Amazon SNS 連携機能を有効にする

Amazon SNS 連携機能を有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/use --set <設定値>
```

- TopicArn(512 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/sns/topicarn --set <TopicArn>
```

注釈: 「Amazon SNS 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

Amazon CloudWatch

- Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする

Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/aws/cloudwatch/use --set  
↪ <設定値>
```

- Namespace(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/aws/cloudwatch/namespace_  
↪ --set <Namespace>
```

注釈: 「Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- メトリクスの送信インターバル

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/metrics/interval --set <設定値>
```

注釈: 「Amazon CloudWatch 連携機能を有効にする」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

コマンドラインオプション (AWS CLI)

AWS CLI コマンドラインオプション

- aws cloudwatch(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/cloudwatch --set <コマンドラインオプション>
```

- aws ec2(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/ec2 --set <コマンドラインオプション>
```

- aws route53(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/route53 --set <コマンドラインオプション>
```

- aws sns(2047 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/cmdopt/sns --set <コマンドラインオプション>
```

環境変数

AWS 関連機能実行時の環境変数

- 追加する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID>/name --set <名前> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID>/value --set  
→<値> --nocheck
```

注釈:

環境変数が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

環境変数が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 削除する

```
clpcfadm.py mod -t cluster/cloud/aws/envs/env@<ID> --delete
```

4.19 統計情報

クラスタ統計情報

- ハートビートリソース

ハートビートリソース	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/heartbeat/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:50 (最小値:1, 最大値:50)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/heartbeat/size --set <設定値>
```

注釈: 「ハートビートリソース」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- グループ

グループ	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/group/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/group/size --set <設定値>
```

注釈: 「グループ」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

- グループリソース

グループリソース	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/resource/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:5)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/resource/size --set <設定値>
```

注釈: 「グループリソース」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

• モニタリソース

モニタリソース	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/monitor/use --set <設定値>
```

– ファイルサイズ (MB)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:10)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/perf/log/monitor/size --set <設定値>
```

注釈: 「モニタリソース」の設定が「有効にする」の場合に設定してください。

ミラー統計情報

• 統計情報を採取する

統計情報を採取する	設定値
採取する (既定値)	1
採取しない	0

```
clpcfadm.py mod -t diskperf/parameters/perfenable --set <設定値>
```

`--nocheck`

システムリソース統計情報

- 統計情報を採取する

統計情報を採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/sysinfo/collect --set <設定値>
```

4.20 拡張

再起動制限

- 最大再起動回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t reg/rc/halt/count --set <設定値> --nocheck
clpcfadm.py mod -t reg/rm/halt/count --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「最大再起動回数」 に 0 を設定した場合、再起動の繰り返しを制限しません。

注釈: 「最大再起動回数」 に 0 を設定した場合、再起動回数はリセットされません。

- 最大再起動回数をリセットする時間 (分)

既定値:60 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t reg/rc/halt/reset --set <設定値> --nocheck
clpcfadm.py mod -t reg/rm/halt/reset --set <設定値> --nocheck
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 自動復帰

自動復帰	設定値
自動復帰する (既定値)	1
自動復帰しない	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/autoreturn/common --set <設定値>
```

- サーバグループ間のフェイルオーバー時の猶予時間 (ミリ秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99999000)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/heartbeat/fodelay --set <設定値>
```

注釈: ミリ秒 (1000 で割り切れる値) で設定してください。

- OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する

OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する	設定値
変更する	1
変更しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/override/finalaction --set <設定値>
```

クラスタ動作の無効化 (保守作業目的での使用を推奨)

- グループ自動起動

グループ自動起動	設定値
無効にする	1
無効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rc/autostart/group/disable --set <設定値>
↪--nocheck
```

- グループリソースの活性異常検出時の復旧動作

グループリソースの活性異常検出時の復旧動作	設定値
無効にする	1
無効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rc/errordetect/rscact/norecovery --set <設定値>
--nocheck
```

- グループリソースの非活性異常検出時の復旧動作

グループリソースの非活性異常検出時の復旧動作	設定値
無効にする	1
無効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rc/errordetect/rscdeact/norecovery --set <設定値>
↪--nocheck
```

- モニタリソースの異常検出時の回復動作

モニタリソースの異常検出時の回復動作	設定値
無効にする	1
無効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rm/errordetect/norecovery --set <設定値>
```

- サーバダウン時のフェイルオーバー

サーバダウン時のフェイルオーバー	設定値
無効にする	1
無効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t rc/svdowndetect/nofailover --set <設定値>
↪ --nocheck
```

ログ保存期間設定

- ログ保存期間設定機能を使用する

ログ保存期間設定機能を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/use --set <設定値>
```

注釈: 「ログ保存期間設定機能を使用する」の設定が「使用する」の場合に設定してください。

- ログ保存期間 (日)

既定値:7 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/period --set <設定値>
```

- ログ保存先 (170 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/path --set <ログ保存先>
```

- ログ保存タイミング

既定値:なし (00:00 ~ 23:59)

```
clpcfadm.py mod -t cluster/logarc/time --set <設定値>
```


第 5 章

サーバを設定する

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはサーバ名に **srv1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

5.1 サーバを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[サーバのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
サーバ名
優先度

```
clpcfadm.py add srv srv1 <優先度>
```

注釈: クラスタプロパティの「インタコネクト」が設定されている必要があります。

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

5.2 サーバ共通のパラメータを設定する

起動可能なサーバの優先順位

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/priority --set <起動可能なサーバの優先順位>
```

注釈:

マスタサーバは、起動可能なサーバの優先順位に 0 を指定してください。

マスタサーバ以外のサーバは、1, 2, 3 … のように連続する数字を指定してください。

サーバグループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/comment --set <コメント>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名>/policy@<サーバ名>/order
↳--set <優先順位> --nocheck
```

注釈: コメントに空白を含む場合はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

注釈:

サーバグループに所属するサーバが 1 つの場合は、優先順位に 0 を指定してください。

サーバグループに所属するサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t servergroup@<サーバグループ名> --delete
```

5.3 サーバのパラメータを設定する

5.3.1 基本情報

- サーバ名 (31 バイト以内)

サーバ追加時に設定しています。サーバ名を変更したい場合は、サーバを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/comment --set <コメント> --nocheck
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

5.3.2 警告灯

追加 (編集)

- 警告灯の種類

警告灯の種類	設定値
DN-1000S / DN-1000R / DN-1300GL (既定値)	dn1000s
DN-1500GL	dn1500gl
NH-FB シリーズ / NH-FB1 シリーズ	patlite
NH-FV1 シリーズ	nhfv1

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/type --set <設定値>
↳ --nocheck
```

重要: 「警告灯の種類」を変更する場合は以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/normal/voice --set ""
↳ --nocheck
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/normal/voicefile --set
↳ "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/error/voice --set ""
↳ --nocheck
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/error/voicefile --set
↳ "" --nocheck
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/info --set <設定値>
↪--nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/user --set <設定値>
↪--nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/password --set <設定値> --nocheck
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- rsh コマンド実行ファイルパスを指定する

rsh コマンド実行ファイルパスを指定する	設定値
指定する	1
指定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/rsh --set <設定値>
↪--nocheck
```

- ファイルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/rshpath --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「rsh コマンド実行ファイルパスを指定する」の設定が「指定する」の場合に設定してください。

- サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う

サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う	設定値
行う	1
行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/normal/voice --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」「NH-FV1 シリーズ」の場合に設定してください。

- 音声ファイル番号

「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」の場合 既定値:01 (最小値:01, 最大値:20)

「警告灯の種類」の設定が「NH-FV1 シリーズ」の場合 既定値:65 (最小値:01, 最大値:70)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/normal/voicefile --set  
↪ <設定値> --nocheck
```

注釈: 「サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う」の設定が「行う」の場合に設定してください。

- サーバ停止時に音声ファイルの再生を行う

サーバ停止時に音声ファイルの再生を行う	設定値
行う	1
行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/error/voice --set <設定値>  
> --nocheck
```

注釈: 「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」「NH-FV1 シリーズ」の場合に設定してください。

- 音声ファイル番号

「警告灯の種類」の設定が「DN-1500GL」の場合 既定値:02 (最小値:01, 最大値:20)

「警告灯の種類」の設定が「NH-FV1 シリーズ」の場合 既定値:66 (最小値:01, 最大値:70)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000/error/voicefile --set
```

```
↪ <設定値> --nocheck
```

注釈: 「サーバ起動時に音声ファイルの再生を行う」の設定が「行う」の場合に設定してください。

削除

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/device@20000 --delete
```

5.3.3 HBA

- クラスタで管理する HBA

追加する

```
clpcfadm.py add hba srv1 <ID> <ポート番号> <HBA デバイス ID> <HBA インスタンス ID>
```

注釈:

クラスタで管理する HBA が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

クラスタで管理する HBA が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

「ポート番号」「HBA デバイス ID」「HBA インスタンス ID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。

詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

削除する

```
clpcfadm.py del hba srv1 <ID>
```

- クラスタ管理から除外するパーティション

追加する

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/hba@<ID>/vol@<ボリューム ID>/
↪volumeguid --set <GUID> --nocheck
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/hba@<ID>/vol@<ボリューム ID>/
↪volumemountpoint --set <ドライブ文字> --nocheck
```

注釈:

クラスタで管理する HBA が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

クラスタで管理する HBA が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

クラスタ管理から除外するパーティションが 1 つの場合は、ボリューム ID に 0 を指定してください。

クラスタ管理から除外するパーティションが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。

詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t server@<サーバ名>/hba@<ID>/vol@<ボリューム ID>
↪--delete
```

5.3.4 Proxy

- Proxy スキーム

Proxy スキーム	設定値
なし (既定値)	0
HTTP	1

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/scheme --set <設定値>
```

- Proxy サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/server --set <Proxy サーバ>
```

注釈: 「Proxy スキーム」の設定が「HTTP」の場合に設定してください。

- Proxy ポート

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t server@srv1/proxy/port --set <設定値>
```

注釈: 「Proxy スキーム」の設定が「HTTP」の場合に設定してください。

5.4 サーバを削除する

サーバ名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del srv srv1
```

第 6 章

グループを設定する

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループ名に **failover1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

6.1 グループを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[グループのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループ名

グループ種別	設定値
フェイルオーバーグループ	failover
管理グループ	ManagementGroup

```
clpcfadm.py add grp <グループ種別> <グループ名>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

6.2 グループ共通のパラメータを設定する

6.2.1 排他

追加する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名> --set "" --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/comment --set <コメント> --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/type --set <排他属性> --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/group@<排他対象のグループ> --set ""
↪ --nocheck
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/order --set 0 --nocheck
```

- 排他名 (31 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名> --set "" --nocheck
```

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/comment --set <コメント> --nocheck
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

- 排他属性

排他属性	設定値
通常排他 (既定値)	normal
完全排他	high

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/type --set <設定値> --nocheck
```

- 排他対象のグループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/group@<排他対象のグループ> --set
↪ "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名>/group@<排他対象のグループ>
↪ --delete
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t xclrule@<排他名> --delete
```

6.3 グループのパラメータを設定する

6.3.1 基本情報

- サーバグループ設定を使用する

設定する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID>/order --set <サーバ  
グループの優先順位> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID>/svgname --set  
→<サーバグループ名> --nocheck  
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名>/order --set <優先  
度> --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/svgpolicy@<ID> --delete  
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy --delete
```

- グループ名 (31 バイト以内)

グループ追加時に設定しています。グループ名を変更したい場合は、グループを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

6.3.2 起動サーバ

- 全てのサーバでフェイルオーバー可能 (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名> --delete
```

注釈: 設定済みの全てのサーバを削除してください。

- 個別に設定する

追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名>/order --set <起動  
順位> --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/policy@<サーバ名> --delete
```

6.3.3 属性

- グループ起動属性

グループ起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/start --set <設定値>
```

- 両系活性チェックを行う

両系活性チェックを行う	設定値
チェックを行う	1
チェックを行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/checksvv/use --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/checksvv/preactping/timeout --set  
↪<設定値>
```

注釈: 「両系活性チェックを行う」の設定が「チェックを行う」の場合に設定してください。

フェイルオーバー属性

- フェイルオーバー属性

自動フェイルオーバー

- 起動可能なサーバ設定に従う

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 1
```

- ダイナミックフェイルオーバーを行う

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 100
```

* サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する

サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する	設定値
優先する	1
優先しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/  
→srvgrp/use --set <設定値>
```

* スマートフェイルオーバーを行う

スマートフェイルオーバーを行う	設定値
スマートフェイルオーバーを行う	1
スマートフェイルオーバーを行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/sra/  
→use --set <設定値>
```

– サーバグループ内のフェイルオーバーポリシーを優先する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 200
```

* サーバグループ間では手動フェイルオーバーのみを有効とする

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 201
```

– 手動フェイルオーバー

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failover --set 0
```

フェイルオーバー属性 (拡張)

- 指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する

指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する	設定値
除外する	1
除外しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/blacklist/use --set <設  
定値>
```

モニタの編集

注釈: 「指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する」の設定

定が「除外する」の場合に設定してください。

- モニタリソースタイプ

追加する

モニタリソースタイプ	設定値
アプリケーション監視	appliw
AWS AZ 監視	awsazw
AWS DNS 監視	awsdns
AWS Elastic IP 監視	awseipw
AWS セカンダリ IP 監視	awssipw
AWS 仮想 IP 監視	awsvipw
Azure DNS 監視	azuredns
Azure ロードバランス監視	azurelbw
Azure プローブポート監視	azureppw
CIFS 監視	cifsw
DB2 監視	db2w
ディスク RW 監視	diskw
フローティング IP 監視	fipw
FTP 監視	ftpw
Google Cloud DNS 監視	gcdns
Google Cloud ロードバランス監視	gclbw
Google Cloud 仮想 IP 監視	gcvipw
カスタム監視	genw
HTTP 監視	httpw
IMAP4 監視	imap4w
IP 監視	ipw
JVM 監視	jraw
NIC Link Up/Down 監視	miiw
外部連携監視	mrw
Oracle Cloud ロードバランス監視	oclbw
Oracle Cloud 仮想 IP 監視	ocvipw
ODBC 監視	odbcw
Oracle 監視	oraclew
WebOTX 監視	otxw
POP3 監視	pop3w

次のページに続く

表 6.9 – 前のページからの続き

モニタリソースタイプ	設定値
PostgreSQL 監視	psqlw
プロセス監視	psrw
プロセス名監視	psw
ディスク TUR 監視	sdw
サービス監視	servicew
SMTP 監視	smtpw
SQL Server 監視	sqlserverw
システム監視	sraw
Tuxedo 監視	tuxw
仮想 IP 監視	vipw
WebSphere 監視	wasw
WebLogic 監視	wlsw

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/
→blacklist/target --set <設定値>
```

注釈: 複数のモニタリソースタイプを設定する場合には カンマ (,) 区切りで設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/
→blacklist/target --set ipw,miw
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/
→blacklist/target --delete
```

重要: 設定済みの全てのモニタリソースタイプを削除します。

• モニタリソースグループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/
→blacklist/targetgrp@0/rsc@<モニタリソース名> --set "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/functype/
→blacklist/targetgrp@0/rsc@<モニタリソース名> --delete
```

- 全てのサーバで異常を検出している場合、異常を無視してフェイルオーバーを行う

全てのサーバで異常を検出している場合、異常を無視してフェイルオーバーを行う	設定値
フェイルオーバーを行う	1
フェイルオーバーを行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/autonomic/forcefo/use --set <設定値>
```

注釈: 「指定したモニタリソースで異常を検出しているサーバをフェイルオーバー先から除外する」の設定が「除外する」の場合に設定してください。

フェイルバック属性

- フェイルバック属性

フェイルバック属性	設定値
自動フェイルバック	1
手動フェイルバック (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/failback --set <設定値>
```

6.3.4 起動待ち合わせ

- 対象グループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<グループ名>
--set "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<グループ名>
--delete
```

プロパティ

- 同じサーバで起動する場合のみ待ち合わせを行う

同じサーバで起動する場合のみ待ち合わせを行う	設定値
待ち合わせを行う	1
待ち合わせを行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/depend@<サーバ名>/
↳sameserver --set <設定値> --nocheck
```

- 対象グループの起動待ち時間 (秒)

既定値:1800 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/act/timeout --set <設定値>
```

6.3.5 停止待ち合わせ

- 対象グループ

追加する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/depend@<グループ名>_
↳--set "" --nocheck
```

削除する

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/depend@<グループ名>_
↳--delete
```

- 対象グループの起動待ち時間 (秒)

既定値:1800 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/timeout --set <設定値>
```

- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる	設定値
停止を待ち合わせる (既定値)	1
停止を待ち合わせない	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/cluster/use --set <設定値>
```

- サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる	設定値
停止を待ち合わせる	1
停止を待ち合わせない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/server/use --set <設定値>
```

- グループ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる

グループ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる	設定値
停止を待ち合わせる	1
停止を待ち合わせない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t group@failover1/depend/deact/other/use --set <設定値>
```

6.4 グループを削除する

グループ名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del grp failover1
```

第 7 章

グループリソースを設定する

7.1 アプリケーションリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **appli1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.1.1 アプリケーションリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「アプリケーションリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
開始パス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> appli appli1  
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actpath --set <開始パス>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.1.2 アプリケーションリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep appli appli1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep appli appli1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep appli appli1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/depend@<依存するリソース名> ↵  
↵--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/act/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/act/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/act/preaction/path_
↪--set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/act/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/act/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@applil/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 7.6 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/  
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/  
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/  
↪ path --set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/deact/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

詳細

- 常駐タイプ

常駐タイプ	設定値
常駐 (既定値)	1
非常駐	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/resident --set <設定値>
```

- 開始パス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actpath --set <開始パス>
```

- 終了パス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/deactpath --set <終了パス>
```

調整

パラメータ

開始

- (開始) 同期タイプ

(開始) 同期タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actsync_
↪--set <設定値>
```

– タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/  
↪acttimeout --set <設定値>
```

注釈: 「(開始) 同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

– 正常な戻り値

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/  
↪actnormalval --set <設定値>
```

注釈: 「(開始) 同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

終了

- (終了) 同期タイプ

(終了) 同期タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/deactsync_  
↪--set <設定値>
```

– タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/  
↪deacttimeout --set <設定値>
```

注釈: 「(終了) 同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

– 正常な戻り値

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/  
↪deactnormalval --set <設定値>
```

注釈: 「(終了) 同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

- 対象 VCOM リソース名

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/target_
```

```
↪ --set <対象 VCOM リソース名>
```

- デスクトップとの対話を許可する

デスクトップとの対話を許可する	設定値
許可する	1
許可しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪ actinteractive --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪ deactinteractive --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 終了時アプリケーションを強制終了する

終了時アプリケーションを強制終了する	設定値
強制終了する	1
強制終了しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/termination_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「常駐タイプ」の設定が「常駐」の場合に設定してください。

- 実行ユーザ

既定値: (個別設定する)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

注釈: 「個別設定する」に変更する場合は以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/account_
↪ --delete
```

開始

- カレントディレクトリ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↳ actdirectory --set <カレントディレクトリ>
```

- オプションパラメータ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actoption_
↳ --set <オプションパラメータ>
```

- ウィンドウサイズ

ウィンドウサイズ	設定値
非表示 (既定値)	0
通常	1
最大化	2
最小化	3

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↳ actwindowsize --set <設定値>
```

実行ユーザ

- ドメイン

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actdomain_
↳ --set <ドメイン>
```

- アカウント

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actaccount_
↳ --set <アカウント>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↳ actpassword --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- コマンドプロンプトから実行する

コマンドプロンプトから実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/actcmd_
↪--set <設定値>
```

終了

- カレントディレクトリ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪deactdirectory --set <カレントディレクトリ>
```

- オプションパラメータ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/deactoption_
↪--set <オプションパラメータ>
```

- ウィンドウサイズ

ウィンドウサイズ	設定値
非表示 (既定値)	0
通常	1
最大化	2
最小化	3

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪deactwindow size --set <設定値>
```

実行ユーザ

- ドメイン

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/deactdomain_
↪--set <ドメイン>
```

- アカウント

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪deactaccount --set <アカウント>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/
↪deactpassword --set <暗号化されたパスワード>
```


注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- コマンドプロンプトから実行する

コマンドプロンプトから実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/parameters/deactcmd_
↪--set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性化後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

リソース非活性化前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/default_  
→--set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/default_
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/path --set  
→<ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/path --set  
→<ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/path --set  
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/path --set  
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/timeout --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/timeout  
→--set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/timeout --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/timeout_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/preact/account --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/predeact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postact/account --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/appli@appli1/postdeact/account_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.1.3 アプリケーションリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> appli appli1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.2 AWS DNS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awsdns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.2.1 AWS DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ホストゾーン ID
リソースレコードセット名
IP アドレス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awsdns awsdns1
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/hostedzoneid --set
↳ <ホストゾーン ID>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/recordset --set <リ
ソースレコードセット名>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ip --set <IP アドレス
(共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/server@<サーバ名>/parameters/ip
↳ --set <IP アドレス (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.2.2 AWS DNS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awsdns awsdns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awsdns awsdns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awsdns awsdns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/depend@<依存するリソース名> ↵  
↵--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/
↳path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 7.29 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/use_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/
↳ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/
↳ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)
既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)
`clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/
↪timeout --set <設定値>`
- 実行ユーザ
`clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/deact/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>`

詳細

共通

- ホストゾーン ID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/hostedzoneid_  
↪--set <ホストゾーン ID>
```

- リソースレコードセット名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/recordset_  
↪--set <リソースレコードセット名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ip --set <IP  
アドレス>
```

- TTL(秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/ttl --set <設  
定値>
```

- 非活性時にリソースレコードセットを削除する

非活性時にリソースレコードセットを削除する	設定値
削除する	1
削除しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/delete --set  
↪<設定値>
```

調整

AWS CLI

- タイムアウト (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/parameters/
```

```
↪awsclitimeout --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/server@<サ ー バ 名>/
```

```
↪parameters/ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/default_
--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/default_
--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/default_
--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/default_
--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/path
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/path
→--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/timeout
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/preact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/predeact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsdns@awsdns1/postdeact/account_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.2.3 AWS DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awsdns awsdns1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.3 AWS Elastic IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awseip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.3.1 AWS Elastic IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS Elastic IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
EIP ALLOCATION ID
ENI ID

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awseip awseip1
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/allocid --set <EIP_
↳ALLOCATION ID>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/eniid --set <ENI_
↳ID (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/
↳eniid --set <ENI ID (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.3.2 AWS Elastic IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awseip awseip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awseip awseip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awseip awseip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/depend@<依存するリソース名>   
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/fo2 --set <設定値>
```


- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/use --set  
→<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/  
→default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/
```

```
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/
↪path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/act/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/use_
```

```
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/
↪ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/deact/preaction/
↪ account --set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

- EIP ALLOCATION ID(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/allocid_
↳ --set <EIP ALLOCATION ID>
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/eniid --set
↳ <ENI ID>
```

調整

AWS CLI

- タイムアウト (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/parameters/
↳ awsclitimeout --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- ENI ID

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/server@<サ ー バ 名>/
↳ parameters/eniid --set <ENI ID> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/use --set  
↔<設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/default_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/path_
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/path --set_
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/path_
↳--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/timeout_
↳--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/preact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/predeact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awseip@awseip1/postdeact/account_
↳--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.3.3 AWS Elastic IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awseip awseip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.4 AWS セカンダリ IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awssip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.4.1 AWS セカンダリ IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS セカンダリ IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
IP アドレス
ENI ID

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awssip awssip1
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/parameters/eniid --set <ENI ID (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/server@<サーバー名>/parameters/eniid --set <ENI ID (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.4.2 AWS セカンダリ IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awssip awssipl
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awssip awssipl <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awssip awssipl ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/depend@<依存するリソース名>
↳ --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/  
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/  
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/  
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/  
↪path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/deact/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/parameters/ip --set <IP  
アドレス>
```

- ENI ID(48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/parameters/eniid --set  
↪ <ENI ID>
```

調整

- 起動タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/parameters/  
↪ acttimeout --set <設定値>
```

- 停止タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/parameters/  
↪ deacttimeout --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- ENI ID(48 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/server@<サ ー バ 名>/  
↪ parameters/eniid --set <ENI ID> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssipl/postdeact/use --set
```

↪ <設定値>

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/default_
↪ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/default_
↪ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/default_
↪ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/path --set
↪ <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/path --set
↪ <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/path --set
↪ <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/path --set_
```

```
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/path
→--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/timeout
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/preact/account
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/predeact/account
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postact/account
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awssip@awssip1/postdeact/account
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.4.3 AWS セカンダリ IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awssip awssip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.5 AWS 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **awsvip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.5.1 AWS 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
IP アドレス
VPC ID
ENI ID

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> awsvip awsvip1
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/vpcid --set <VPC ID (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/vpcid --set <VPC ID (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/parameters/eniid --set <ENI ID (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サーバ名>/parameters/eniid --set <ENI ID (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.5.2 AWS 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep awsvip awsvip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep awsvip awsvip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep awsvip awsvip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/depend@<依存するリソース名>
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/
↳path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 7.72 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/use_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/
↳ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/deact/preaction/
↳ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)
既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)
`clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/deact/preaction/`
→ `timeout --set <設定値>`
- 実行ユーザ
`clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/deact/preaction/`
→ `account --set <実行ユーザ>`

詳細

共通

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/parameters/ip --set <IP
アドレス>
```

- VPC ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/parameters/vpcid --set
→ <VPC ID>
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/parameters/eniid --set
→ <ENI ID>
```

調整

- 起動タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/parameters/
→ acttimeout --set <設定値>
```

- 停止タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvipl/parameters/
→ deacttimeout --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- VPC ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サブ名>/
↳parameters/vpcid --set <VPC ID> --nocheck
```

- ENI ID(45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/server@<サブ名>/
↳parameters/eniid --set <ENI ID> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/use --set <設定値>
```


- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/use --set
↪<設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/default_
↪--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/default_
↪--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/default_
↪--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/path
→--set <ファイル>

```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/path
→--set rscentent.bat

```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/timeout
→--set <設定値>

```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```

clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/preact/account
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/predeact/account

```

```
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/awsvip@awsvip1/postdeact/account_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.5.3 AWS 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> awsvip awsvip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.6 Azure DNS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **azuredns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.6.1 Azure DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
レコードセット名
ゾーン名
IP アドレス
リソースグループ名
ユーザ URI
テナント ID
サービスプリンシパルのファイルパス
Azure CLI ファイルパス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> azuredns azuredns1
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/recordset_
↳--set <レコードセット名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/zone --set <ゾ
ン名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ip --set <IP アド
レス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/server@<サ ー バ 名>/
↳parameters/ip --set <IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/resourcegroup_
↳--set <リソースグループ名>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/uri --set <ユーザ
URI>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/tenantid --set
↳<テナント ID>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/certfile --set
```

↪ <サービスプリンシパルのファイルパス>

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/azurecli --set
```

↪ <Azure CLI ファイルパス>

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.6.2 Azure DNS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep azuredns azuredns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep azuredns azuredns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep azuredns azuredns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/depend@<依存するリソース名>
--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/use_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/
↪ path --set preactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/
↪ timeout --set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/act/preaction/
↪ account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/action --set  
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/preaction/use_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/  
↪ preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/
↳preaction/path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/
↳preaction/path --set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/
↳preaction/timeout --set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/deact/
↳preaction/account --set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

- レコードセット名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/
↳recordset --set <レコードセット名>
```

- ゾーン名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/zone_
↳--set <ゾーン名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ip --set
↳<IP アドレス>
```

- TTL(秒)

既定値:3600 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/ttl_
↳--set <設定値>
```

- リソースグループ名 (180 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/  
↪resourcegroup --set <リソースグループ名>
```

- ユーザ URI (2083 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/uri_  
↪--set <ユーザ URI>
```

- テナント ID (36 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/tenantid_  
↪--set <テナント ID>
```

- サービスプリンシパルのファイルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/certfile_  
↪--set <サービスプリンシパルのファイルパス>
```

- Azure CLI ファイルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/azurecli_  
↪--set <Azure CLI ファイルパス>
```

- 非活性時にリソースレコードセットを削除する

非活性時にリソースレコードセットを削除する	設定値
削除する (既定値)	1
削除しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/delete_  
↪--set <設定値>
```

調整

Azure CLI

- タイムアウト (秒)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/parameters/  
↪azureclitimeout --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/server@<サーバー名>/
↳parameters/ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/use --set
↳<設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/use_
↳--set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/use_
↪--set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/use_
↪--set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/default_
↪--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/
↪default --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/default_
↪--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/
↪default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/path_
↪--set <ファイル>
```

```

clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/path_
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/path_
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/path_
→--set <ファイル>

```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```

clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/path_
→--set rscentent.bat

```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```

clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/
→timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/
→timeout --set <設定値>

```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```

clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/preact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/predeact/
→account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postact/account_

```

```
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/azuredns@azuredns1/postdeact/  
→account --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.6.3 Azure DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> azuredns azuredns1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.7 Azure プローブポートリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **azurepp1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.7.1 Azure プローブポートリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure プローブポートリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
プローブポート

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> azurepp azurepp1  
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/probeport --set  
➡ <プローブポート>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.7.2 Azure プローブポートリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep azurepp azurepp1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep azurepp azurepp1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep azurepp azurepp1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/depend@<依存するリソース名>   
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/
↳path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/
↳path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/deact/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

詳細

- プロブポート

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/probeport_
↪--set <設定値>
```

調整

- プロブ待ち受けのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/parameters/
↪probetimeout --set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/use --set
➡ <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/use --set
➡ <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/use_
➡ --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/default_
➡ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/default_
➡ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/default_
➡ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/default_
➡ --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/path
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/path
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/path
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/path
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/path
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/path
→--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/timeout
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/timeout
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/preact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/predeact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/azurepp@azurepp1/postdeact/account_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.7.3 Azure プロープポートリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> azurepp azurepp1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.8 CIFS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **cifs1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.8.1 CIFS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[CIFS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
共有名
フォルダ
対象ドライブ
アクセス許可ユーザ数
ユーザ名
権限

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> cifs cifs1
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/sharename --set <共有名>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/path --set <フォルダ>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/drive --set <対象ドライブ>
↪/
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/securitynum --set <アクセス許可ユーザ数>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/securitylist@<ID>/name ↪
↪--set <ユーザ名>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/securitylist@<ID>/
↪permissions --set <権限>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.8.2 CIFS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep cifs cifs1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep cifs cifs1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep cifs cifs1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/path_
↪ --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/act/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 7.115 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/path_
↳--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/path_
↳--set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/
```

→ timeout --set <設定値>

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/deact/preaction/
```

→ account --set <実行ユーザ>

詳細

- ドライブ共有設定の自動保存を行う

ドライブ共有設定の自動保存を行う	設定値
自動保存を行う	1
自動保存を行わない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/driveadmin --set <設定値>
```

注釈: 「ドライブ共有設定の自動保存を行う」の設定が「自動保存を行う」場合に設定してください。

- 対象ドライブ

設定値
A: (既定値)
B:
C:
D:
E:
F:
G:
H:
I:
J:
K:
L:
M:
N:

次のページに続く

表 7.119 – 前のページからの続き

設定値
O:
P:
Q:
R:
S:
T:
U:
V:
W:
X:
Y:
Z:

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/drive --set <設定値>
```

- 共有設定ファイル (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/filepath --set <共有設定ファイル>
```

- 共有設定復元時の失敗を活性異常とする

共有設定復元時の失敗を活性異常とする	設定値
活性異常とする	1
活性異常としない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/errorcheck --set <設定値>
```

注釈: 「ドライブ共有設定の自動保存を行う」の設定が「自動保存を行わない」場合に設定してください。

- 共有名 (79 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/sharename --set <共有名>
```

- フォルダ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/path --set <フォルダ>
```

- コメント (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/comment --set <コメント>
```

- フォルダがすでに共有済みの場合に活性異常としない

フォルダがすでに共有済みの場合に活性異常としない	設定値
活性異常とする	0
活性異常としない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/alreadyshared --set  
↪ <設定値>
```

調整

注釈: 「ドライブ共有設定の自動保存を行う」の設定が「自動保存を行わない」場合に設定してください。

キャッシュ

- キャッシュを可能にする

キャッシュを可能にする	設定値
可能にする (既定値)	1
可能にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/csc --set <設定値>
```

- キャッシュ設定

キャッシュ設定	設定値
自動キャッシュ (既定値)	0
手動キャッシュ	1
自動キャッシュ (パフォーマンスを最適化)	2

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/cscmethod_  
↪ --set <設定値>
```

ユーザ

- ユーザ数制限
既定値:0 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/userlimit_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「ユーザ数制限」の設定を「無制限」に変更する場合は 0 を設定してください。

- アクセス許可

追加する

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/
↪securitynum --set <ユーザ数>

clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/
↪securitylist@<ID>/name --set <ユーザ名> --nocheck

clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/
↪securitylist@<ID>/permissions --set <権限> --nocheck
```

注釈: 「権限」には以下の値を設定してください。

権限	設定値
なし (既定値)	0
読み取り	1
変更	2
フルコントロール	3

注釈:

制限するユーザが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

制限するユーザが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/
↪securitynum --set <削除後のユーザ数>

clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/parameters/
↪securitylist@<ID> --delete
```


拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/default --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/path --set  
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/path --set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/path --set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/path --set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/path --set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/preact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/predeact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/cifs@cifs1/postdeact/account --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.8.3 CIFS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> cifs cifs1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.9 ダイナミック DNS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **ddns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.9.1 ダイナミック DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ダイナミック DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
仮想ホスト名
IP アドレス
DDNS サーバ

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> ddns ddns1
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ddnsname --set <仮想ホスト名>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ip --set <IP アドレス>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/name --set
↳ <DDNS サーバ>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.9.2 ダイナミック DNS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep ddns ddns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep ddns ddns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep ddns ddns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/path_
↳ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/path_
↳ --set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/act/preaction/account_
↳ --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/use --set <設
```


定値>

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/path_
↳--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/path_
↳--set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/deact/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

- 仮想ホスト名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ddnsname_
↪--set <仮想ホスト名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/ip --set <IP
アドレス>
```

- DDNS サーバ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/name_
↪--set <DDNS サーバ>
```

- ポート番号

既定値:53 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dnsserver/port_
↪--set <設定値>
```

- キャッシュの TTL(秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/host/recordttl_
↪--set <設定値>
```

- 定期的に動的更新を行う

定期的に動的更新を行う	設定値
動的更新を行う (既定値)	1
動的更新を行わない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/dynamicupdate_
↪--set <設定値>
```

- 更新間隔 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:599940)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/ddnsinterval_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「定期的に動的更新を行う」の設定が「動的更新を行う」場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 登録した IP アドレスを削除する

登録した IP アドレスを削除する	設定値
削除する	1
削除しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/registeripdelete_
↪--set <設定値>
```

- Kerberos 認証

Kerberos 認証	設定値
認証する	1
認証しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/parameters/kerberosregister_
↪--set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/server@<サーバ名>/parameters/
↪host/ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/server@<サーバ名> --delete
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/default --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/path --set  
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/path --set         
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/path --set         
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/path --set         
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/path --set         
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/timeout --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/preact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/predeact/account --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postact/account --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ddns@ddns1/postdeact/account --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.9.3 ダイナミック DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> ddns ddns1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.10 フローティング IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **fip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.10.1 フローティング IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[フローティング IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
IP アドレス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> fip fip1  
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.10.2 フローティング IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep fip fip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep fip fip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep fip fip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1

次のページに続く

表 7.150 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/path_
↪--set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/act/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/path_
↪--set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/deact/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

• IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

調整

• Ping 実行

Ping 実行	設定値
実行する (既定値)	1
実行しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/pingexec --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「Ping 実行」の設定が「実行する」場合に設定してください。

ping

- インターバル (秒)

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/
↪ pinginterval --set <設定値>
```

- タイムアウト (ミリ秒)

既定値:1000 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/
↪ pingtimeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/pingretry_
↪ --set <設定値>
```

- NIC Link Down を異常と判定する

NIC Link Down を異常と判定する	設定値
判定する	1
判定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/monmii --set
↪ <設定値>
```

- 送信元変更機能を使用する

送信元変更機能を使用する	設定値
使用する	1
使用しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/srcip/use_
↪--set <設定値>
```

– 送信元の指定

送信元の指定	設定値
FIP を送信元にする (既定値)	0
FIP を送信元にしない	1

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/parameters/srcip/src_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「送信元変更機能を使用する」の設定が「使用する」の場合に設定してください。

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/server@<サーバ名>/parameters/ip_
↪--set <IP アドレス> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/server@<サーバ名> --delete
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/default --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/path --set  
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/path --set _
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/timeout --set <設 定
値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/timeout --set <設
定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/timeout --set <設定
値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/timeout --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/preact/account --set <設 定
値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/predeact/account --set <設
定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postact/account --set <設定
値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/fip@fip1/postdeact/account --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.10.3 フローティング IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> fip fip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.11 Google Cloud DNS リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **gcdns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.11.1 Google Cloud DNS リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud DNS リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)

グループリソース名

ゾーン名

DNS 名

IP アドレス

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> gcdns gcdns1
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/zone_name --set <ゾーン名>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/dns_name --set <DNS名>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/server@<サーバ名>/parameters/record_ip --set <IP アドレス (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.11.2 Google Cloud DNS リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep gcdns gcdns1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep gcdns gcdns1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep gcdns gcdns1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/depend@<依存するリソース名> ↵
↵--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/path_
↪--set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/act/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5

次のページに続く

表 7.171 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/  
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/  
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/  
↪ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/
```

```
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/deact/preaction/
```

```
↪ account --set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

- ゾーン名 (63 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/zone_name_
```

```
↪ --set <ゾーン名>
```

- DNS 名 (253 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/dns_name --set
```

```
↪ <DNS 名>
```

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ip_
```

```
↪ --set <IP アドレス>
```

- TTL(秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:2147483647)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/record_ttl_
```

```
↪ --set <設定値>
```

- 非活性時にレコードを削除する

非活性時にレコードを削除する	設定値
削除する (既定値)	1
削除しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/parameters/delete --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/server@<サーバー名>/  
parameters/record_ip --set <IP アドレス> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/default --set
➡<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/default_
➡--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/default --set
➡<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/default_
➡--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/path --set  
→<ファイル>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/path --set  
→<ファイル>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/path --set  
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/path --set  
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/timeout --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/timeout  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/timeout --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/timeout  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/preact/account --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/predeact/account  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postact/account --set
```

→ <設定値>

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcdns@gcdns1/postdeact/account_
```

→ --set <設定値>

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.11.3 Google Cloud DNS リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> gcdns gcdns1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.12 Google Cloud 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **gcvip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.12.1 Google Cloud 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ポート番号

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> gcvip gcvip1  
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/parameters/probeport --set <ポート  
番号>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.12.2 Google Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep gcvip gcvipl
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep gcvip gcvipl <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep gcvip gcvipl ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/depend@<依存するリソース名>
↳ --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/act/preaction/path_  
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/preaction/path_
↪--set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/act/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/deact/preaction/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/
↪ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/deact/preaction/
↪ account --set <実行ユーザ>
```


詳細

- ポート番号

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/parameters/probeport --set <設定値>
```

調整

- ヘルスチェックのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/parameters/probetimeout_
↪--set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/preact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/predeact/default_  
→--set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvipl/postdeact/default_  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/path --set
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/path --set_
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/timeout_
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/preact/account --set
```

```
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/predeact/account_
```

```
→--set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postact/account --set
```

```
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/gcvip@gcvip1/postdeact/account_
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.12.3 Google Cloud 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> gcvip gcvip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.13 ハイブリッドディスクリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **hd1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.13.1 ハイブリッドディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスクリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
データパーティションのドライブ文字
GUID(データパーティション)
クラスタパーティションのドライブ文字
GUID(クラスタパーティション)
ミラーディスクコネク

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> hd hd1
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/volumemountpoint --set <データパーティションのドライブ文字>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名>/parameters/volumeguid_
↳ --set <GUID(データパーティション)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/cpvolumemountpoint --set <クラスタパーティションのドライブ文字>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/server@<サーバ名>/parameters/
↳ cpvolumeguid --set <GUID(クラスタパーティション)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/device --set <ミラーディスクコネク (デバイス ID)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set
↳ <ミラーディスクコネク (名前)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/netdev@<ID>/priority --set
↳ <ミラーディスクコネク (優先度)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.13.2 ハイブリッドディスクリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep hd hd1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep hd hd1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep hd hd1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/path --set_
↪ preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/act/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/deact/preaction/path_
```

```
↪--set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/timeout_
```

```
↪--set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/deact/preaction/account_
```

```
↪--set <実行ユーザ>
```

詳細

- ハイブリッドディスク番号

設定値
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/parameters/hdindex --set <設定値>
```

- データパーティションのドライブ文字

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/volumemountpoint --set
↳ <データパーティションのドライブ文字>
```

- GUID(データパーティション)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/server@<サ ー バ 名>/parameters/
↳ volumeguid --set <GUID (データパーティション)> --nocheck
```

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。
 詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

- クラスタパーティションのドライブ文字

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/cpvolumemountpoint
↳ --set <クラスタパーティションのドライブ文字>
```

- GUID(クラスタパーティション)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/server@<サ ー バ 名>/parameters/
↳ cpvolumeguid --set <GUID (クラスタパーティション)> --nocheck
```

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。
 詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

- クラスタパーティションのオフセットインデックス

設定値
0 (既定値)
1
2
3
4
5
6
7

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/cpvolumeoffsetindex_
↪--set <設定値>
```

- ミラーディスクコネクト

設定値 (ミラーディスクコネクト (名前))	設定値 (ミラーディスクコネクト (デバイス ID))
mdc1	400
mdc2	401
mdc3	402
mdc4	403
mdc5	404
mdc6	405
mdc7	406
mdc8	407
mdc9	408
mdc10	409
mdc11	410
mdc12	411
mdc13	412
mdc14	413
mdc15	414
mdc16	415

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/netdev@<ID>/device_
↪--set <設定値 (ミラーディスクコネクト (デバイス ID))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/netdev@<ID>/mdcname_
↪--set <設定値 (ミラーディスクコネクト (名前))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/netdev@<ID>/priority_
↪--set <ミラーディスクコネクト (優先度)> --nocheck
```

注釈:

ミラーディスクコネクトが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネクトが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

ミラーディスクコネクトが 1 つの場合は、優先度に 1 を指定してください。

ミラーディスクコネクトが複数の場合は、優先度が高い順に 1, 2, 3 … のように連続する数字を指定し

てください。

調整

- 初期ミラー構築を行う

初期ミラー構築を行う	設定値
初期ミラー構築を行う (既定値)	1
初期ミラー構築を行わない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/fullcopy --set <設定値>
```

- ミラーコネクトタイムアウト (秒)

既定値:20 (最小値:2, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/mirrorconnecttimeout_
↪--set <設定値>
```

- リクエストキュー最大サイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/requestqueuesize_
↪--set <設定値>
```

モード

- モード

モード	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/syncmode --set <設
定値>
```

注釈: 「モード」の設定が「非同期」の場合に設定してください。

- カーネルキューサイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/kequeueuse --set  
↪ <設定値>
```

- アプリケーションキューサイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/apqueueuse --set  
↪ <設定値>
```

- 通信帯域を制限する

– 帯域上限 (KB/秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/bandlimit_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「通信帯域を制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/bandlimit --set 0
```

- スレッドタイムアウト (秒)

既定値:0 (最小値:2, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/apthreadtimeout_  
↪ --set <設定値>
```

- 履歴ファイル格納フォルダ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/historydir --set  
↪ <履歴ファイル格納フォルダ>
```

- 履歴ファイルサイズを制限する

– サイズ上限 (MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/historymax_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「履歴ファイルサイズを制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/historymax --set 0
```

- データを圧縮する

データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/compress --set <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

復帰方法

- 復帰時データを圧縮する

復帰時データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/compress --set <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

ミラー通信暗号化

- ミラー通信を暗号化する

ミラー通信を暗号化する	設定値
暗号化する	1
暗号化しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/crypto/use --set
↳ <設定値>
```

- 鍵ファイルフルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/parameters/crypto/keyfile_
↳ --set <鍵ファイルフルパス>
```

注釈: 「ミラー通信を暗号化する」の設定が「暗号化する」の場合に設定してください。

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 7.213 – 前のページからの続き

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hdl/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/path --set <ファイル>
>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/path --set rscentent.
↳bat
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/path --set_
↳rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/timeout --set <設 定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/timeout --set <設 定 値
>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/timeout --set <設定
値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/preact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/predeact/account --set <設 定
値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/hd@hd1/postdeact/account --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.13.3 ハイブリッドディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> hd hd1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.14 ミラーディスクリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **md1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.14.1 ミラーディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「ミラーディスクリソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
データパーティションのドライブ文字
GUID(データパーティション)
クラスタパーティションのドライブ文字
GUID(クラスタパーティション)
ミラーディスクコネク

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> md md1
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/volumemountpoint --set <データパーティションのドライブ文字>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名>/parameters/volumeguid_
↳--set <GUID(データパーティション)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/cpvolumemountpoint --set <クラスタパーティションのドライブ文字>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/server@<サーバ名>/parameters/
↳cpvolumeguid --set <GUID(クラスタパーティション)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/device --set <ミラーディスクコネク (デバイス ID)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/mdcname --set
↳<ミラーディスクコネク (名前)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/parameters/netdev@<ID>/priority --set
↳<ミラーディスクコネク (優先度)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.14.2 ミラーディスクリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep md mdl
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep md mdl <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep md mdl ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/path --set
↪<ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/path --set_
↪preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/act/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/path_
```



```
↪--set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/timeout_
```

```
↪--set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/deact/preaction/account_
```

```
↪--set <実行ユーザ>
```

詳細

- ミラーディスク番号

設定値
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/nmpindex --set <設定値>
```

- データパーティションのドライブ文字

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/volumemountpoint --set
↳ <データパーティションのドライブ文字>
```

- GUID(データパーティション)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/server@<サーバー名>/parameters/
↳ volumeguid --set <GUID (データパーティション)> --nocheck
```

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。

詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

- クラスタパーティションのドライブ文字

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/cpvolumemountpoint
↳ --set <クラスタパーティションのドライブ文字>
```

- GUID(クラスタパーティション)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/server@<サーバー名>/parameters/
↳ cpvolumeguid --set <GUID (クラスタパーティション)> --nocheck
```

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。

詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

- クラスタパーティションのオフセットインデックス

設定値
0 (既定値)
1
2
3
4
5
6
7

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/cpvolumeoffsetindex_
↪--set <設定値>
```

- ミラーディスクコネク

設定値 (ミラーディスクコネク (名前))	設定値 (ミラーディスクコネク (デバイス ID))
mdc1	400
mdc2	401
mdc3	402
mdc4	403
mdc5	404
mdc6	405
mdc7	406
mdc8	407
mdc9	408
mdc10	409
mdc11	410
mdc12	411
mdc13	412
mdc14	413
mdc15	414
mdc16	415

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/netdev@<ID>/device_
↪--set <設定値 (ミラーディスクコネク (デバイス ID))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/netdev@<ID>/mdcname_
↪--set <設定値 (ミラーディスクコネク (名前))> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/netdev@<ID>/priority_
↪--set <ミラーディスクコネク (優先度)> --nocheck
```

注釈:

ミラーディスクコネクが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

ミラーディスクコネクが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈:

ミラーディスクコネクが 1 つの場合は、優先度に 1 を指定してください。

ミラーディスクコネクが複数の場合は、優先度が高い順に 1, 2, 3 … のように連続する数字を指定し

てください。

調整

- 初期ミラー構築を行う

初期ミラー構築を行う	設定値
初期ミラー構築を行う (既定値)	1
初期ミラー構築を行わない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/fullcopy --set <設定値>
```

- ミラーコネクトタイムアウト (秒)

既定値:20 (最小値:2, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/mirrorconnecttimeout_
↪--set <設定値>
```

- リクエストキュー最大サイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/requestqueuesize_
↪--set <設定値>
```

モード

- モード

モード	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/syncmode --set <設
定値>
```

注釈: 「モード」の設定が「非同期」の場合に設定してください。

- カーネルキューサイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/kequeueuse --set  
↪ <設定値>
```

- アプリケーションキューサイズ (KB)

既定値:2048 (最小値:512, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/apqueueuse --set  
↪ <設定値>
```

- 通信帯域を制限する

- 帯域上限 (KB/秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/bandlimit_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「通信帯域を制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/bandlimit --set 0
```

- スレッドタイムアウト (秒)

既定値:0 (最小値:2, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/apthreadtimeout_  
↪ --set <設定値>
```

- 履歴ファイル格納フォルダ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/historydir --set  
↪ <履歴ファイル格納フォルダ>
```

- 履歴ファイルサイズを制限する

- サイズ上限 (MB)

既定値:0 (最小値:1, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/historymax_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「履歴ファイルサイズを制限しない」場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/historymax --set 0
```

- データを圧縮する

データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/compress --set <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

復帰方法

- 復帰時データを圧縮する

復帰時データを圧縮する	設定値
通常時データを圧縮する	1
復帰時データを圧縮する	2
通常時、復帰時データを圧縮する	3
圧縮しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/compress --set <設定値>
```

重要: 「データを同期する」の設定が「同期する」場合は「通常時データを圧縮する」「通常時、復帰時データを圧縮する」は設定できません。

ミラー通信暗号化

- ミラー通信を暗号化する

ミラー通信を暗号化する	設定値
暗号化する	1
暗号化しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/crypto/use --set
↳ <設定値>
```

- 鍵ファイルフルパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/parameters/crypto/keyfile_
↳ --set <鍵ファイルフルパス>
```

注釈: 「ミラー通信を暗号化する」の設定が「暗号化する」の場合に設定してください。

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 7.235 – 前のページからの続き

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@mdl/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/path --set <ファイル>
>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/path --set rscentent.
↳bat
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/path --set_
↳rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/timeout --set <設定値>
>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/preact/account --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/predeact/account --set <設定値>
>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/md@md1/postdeact/account --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.14.3 ミラーディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> md md1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.15 Oracle Cloud 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **ocvip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.15.1 Oracle Cloud 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Oracle Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ポート番号

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> ocvip ocvip1  
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probeport --set <ポート  
番号>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.15.2 Oracle Cloud 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep ocvip ocvipl
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep ocvip ocvipl <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep ocvip ocvipl ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvipl/depend@<依存するリソース名>
↳--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvipl/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvipl/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvipl/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/path_  
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/path_
↪--set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/act/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/
↪path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/deact/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

詳細

- ポート番号

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probeport --set <設定値>
```

調整

- ヘルスチェックのタイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:5, 最大値:999999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/parameters/probetimeout_
↪--set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/default_  
→--set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/default_  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/path --set
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscontext.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/path --set_
→rscontext.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/path --set_
→rscontext.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/path --set_
→rscontext.bat
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/path --set_
→rscontext.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/timeout --set
→<設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/timeout_
```

```
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/preact/account --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/predeact/account_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postact/account --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/ocvip@ocvip1/postdeact/account_  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.15.3 Oracle Cloud 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> ocvip ocvip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.16 レジストリ同期リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **regsync1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.16.1 レジストリ同期リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[レジストリ同期リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
レジストリキー

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> regsync regsync1  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/parameters/list@<ID>/regkey  
↪ --set <レジストリキー> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.16.2 レジストリ同期リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep regsync regsync1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep regsync regsync1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep regsync regsync1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/depend@<依存するリソース名>   
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/  
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/  
↪path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/deact/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```


詳細

- レジストリキー (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/parameters/list@<ID>/
↪regkey --set <レジストリキー> --nocheck
```

注釈:

レジストリキーが 1 つの場合は、ID に 1 を指定してください。

レジストリキーが複数の場合は、1, 2, 3 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: 複数のキーを登録する場合、登録済みのキーと親子関係のキーは指定できません。

調整

- 配信インターバル (秒)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/parameters/
↪deliveryinterval --set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/use --set  
↪<設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/use --set  
↪<設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/use  
↪--set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1

次のページに続く

表 7.266 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/default_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/path_
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/path_
→--set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/path_
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/path_
```

```
→--set rscextent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/path_  
→--set rscextent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/timeout_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/timeout_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/timeout_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/timeout_  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/preact/account_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/predeact/account_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postact/account_  
→--set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/regsync@regsync1/postdeact/account_  
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.16.3 レジストリ同期リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> regsync regsync1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.17 スクリプトリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **script1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.17.1 スクリプトリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[スクリプトリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> script script1
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.17.2 スクリプトリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep script script1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep script script1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep script script1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/depend@<依存するリソース名>   
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/
↪ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/
↳ path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/
↳ path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/deact/preaction/
↳ account --set <実行ユーザ>
```

詳細

- スクリプト

注釈:

既定のスクリプトファイルを編集する場合は <インストールパス>\scripts\<所属グループ名>\<スクリプトリソース名>\start.bat または stop.bat を編集してください。

スクリプトファイルを追加する場合は <インストールパス>\scripts\<所属グループ名>\<スクリプトリソース名> に格納してください。

調整

開始

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↪acttimeout --set <設定値>
```

- 正常な戻り値

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↪actnormalval --set <設定値>
```

- 待機系サーバで実行する

待機系サーバで実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↪actpostrunothers --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↪acttimeouthothers --set <設定値>
```

注釈: 「待機系サーバで実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

- リカバリ処理を実行する

リカバリ処理を実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳recoveruse --set <設定値>
```

終了

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳deacttimeout --set <設定値>
```

- 正常な戻り値

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳deactnormalval --set <設定値>
```

- 待機系サーバで実行する

待機系サーバで実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳deactprerunothers --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳deacttimeoutothers --set <設定値>
```

注釈: 「待機系サーバで実行する」の設定が「実行する」の場合に設定してください。

- 対象 VCOM リソース名

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/target --set
↳ <対象 VCOM リソース名>
```

- デスクトップとの対話を許可する

デスクトップとの対話を許可する	設定値
許可する	1
許可しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳actinteractive --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/
↳deactinteractive --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/parameters/account_
↳--set <実行ユーザ>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/use --set  
↔<設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/default_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/default_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/path --set
→<ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/path_
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/path --set_
→rscentent.bat
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/path --set_
↳rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/path_
↳--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/timeout_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/timeout_
↳--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/preact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/predeact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postact/account_
↳--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/script@script1/postdeact/account_
↳--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.17.3 スクリプトリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> script script1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.18 ディスクリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **sd1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.18.1 ディスクリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ディスクリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
ドライブ文字
GUID

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> sd sd1
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/parameters/volumemountpoint --set <ド ラ
イブ文字>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/server@<サーバ名>/parameters/volumeuid_
↩--set <GUID> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.18.2 ディスクリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep sd sd1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep sd sd1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep sd sd1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/path --set
↪ <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/path --set
↳preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/timeout
↳--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/act/preaction/account
↳--set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/path_
↪--set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/deact/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

詳細

- ドライブ文字

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/parameters/volumemountpoint --set
↳ <ドライブ文字>
```

- GUID

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/server@/<サ ー バ 名>/parameters/
↳ volumeguid --set <GUID> --nocheck
```

注釈:

「GUID」は `clpdiskctrl` コマンドで取得する事が可能です。
 詳細は「[clpdiskctrl コマンド](#)」を参照してください。

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性化後にスクリプトを実行する

リソース活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化前にスクリプトを実行する

リソース非活性化前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性化後にスクリプトを実行する

リソース非活性化後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/default --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/path --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/path --set <ファイル>
>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/path --set rscentent.
→bat
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/path --set
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/path --set
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/timeout --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/timeout --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/preact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/predeact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/sd@sd1/postdeact/account --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.18.3 ディスクリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> sd sd1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.19 サービスリソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **service1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.19.1 サービスリソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[サービスリソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
サービス名

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> service service1  
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/name --set <サービス名>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.19.2 サービスリソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲ってください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep service servicel
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep service servicel <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep service servicel ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@servicel/depend@<依存するリソース名>   
↪--delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@servicel/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@servicel/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@servicel/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/
↪path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/
↳path --set preaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/act/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/
↳path --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/
↳path --set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/deact/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

詳細

- サービス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/name --set
```

↪ <サービス名>

調整

開始

- 同期タイプ

同期タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/actsync
```

↪ --set <設定値>

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/
```

↪ acttimeout --set <設定値>

注釈: 「同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

終了

- 同期タイプ

同期タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/
```

↪ deactsync --set <設定値>

- タイムアウト (秒)

既定値:1800 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/
↳deacttimeout --set <設定値>
```

注釈: 「同期タイプ」の設定が「同期」の場合に設定してください。

- 対象 VCOM リソース名

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/target_
↳--set <対象 VCOM リソース名>
```

サービス

- 開始パラメータ (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/option_
↳--set <開始パラメータ>
```

- サービスが起動済みの場合、エラーとしない

サービスが起動済みの場合、エラーとしない	設定値
エラーとする (既定値)	0
エラーとしない	1

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/started_
↳--set <設定値>
```

- サービス開始後の待ち合わせ (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/
↳actwaittime --set <設定値>
```

- サービス停止後の待ち合わせ (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/parameters/
↳deactwaittime --set <設定値>
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/use --set  
↪ <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0


```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/use --set
↳ <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/use
↳ --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/default
↳ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/default
↳ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/default
↳ --set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/default
↳ --set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/path --set
↳ <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/path
↳ --set <ファイル>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/path
↳ --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/path_
→--set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/path_
→--set rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/path_
→--set rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/timeout_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/timeout_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/preact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/predeact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postact/account_
→--set <設定値>
clpcfadm.py mod -t resource/service@service1/postdeact/account_
→--set <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.19.3 サービスリソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> service service1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.20 仮想コンピュータ名リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **vcom1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.20.1 仮想コンピュータ名リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想コンピュータ名リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
仮想コンピュータ名

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> vcom vcom1  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/parameters/vcomname --set <仮想コンピュータ名>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.20.2 仮想コンピュータ名リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep vcom vcom1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep vcom vcom1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep vcom vcom1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1

次のページに続く

表 7.318 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定し

てください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/path_
↳--set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/timeout_
↳--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/act/preaction/account_
↳--set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

- 非活性リトライしきい値

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/retry --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/path_
↳--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/path_
↳--set predeactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/deact/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

詳細

重要:

「対象 FIP リソース名」を設定しない場合は非 bind 方式で活性します。

非 bind 方式の場合、フェイルオーバー後に一時的にアクセスできなくなります。

• 仮想コンピュータ名 (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/parameters/vcomname --set <仮想コ
```


ンピュータ名>

- 対象 FIP リソース名

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/parameters/target --set <対象 FIP
リソース名>
```

調整

- DNS への動的登録をする

DNS への動的登録をする	設定値
動的登録をする	1
動的登録をしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/parameters/dnsregister_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「DNS への動的登録をする」の設定が「動的登録をする」の場合に設定してください。

- 対応付ける IP アドレス

対応付ける IP アドレス	設定値
FIP (既定値)	0
任意のアドレス	2

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/parameters/dnstype --set
↪<設定値>
```

重要: 「対象 FIP リソース名」が設定されていない場合は「任意のアドレス」を設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/server@<サ ー バ 名>/
↪parameters/dnsip --set <IP アドレス> --nocheck
```

注釈: 「対応付ける IP アドレス」の設定が「任意のアドレス」の場合に設定してください。

注釈: 削除する場合は、以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/server@<サーバ名> --delete
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/default --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/default --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/path --set <ファ
```

イル>

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/path --set <ファイル>  
イル>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/path --set  
→<ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/path --set  
→rscentent.bat  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/path --set  
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/timeout --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/timeout --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/timeout --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/timeout --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/preact/account --set <設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/predeact/account --set  
→<設定値>  
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postact/account --set  
→<設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vcom@vcom1/postdeact/account --set  
→ <設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.20.3 仮想コンピュータ名リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> vcom vcom1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

7.21 仮想 IP リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはグループリソース名に **vip1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

7.21.1 仮想 IP リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想 IP リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
グループリソース名
IP アドレス
ネットマスク
宛先 IP アドレス
送信元 IP アドレス
ルーティングプロトコル

```
clpcfadm.py add rsc <所属するグループ名> vip vip1
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ip --set <IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/ip --set
↳<IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/mask --set <ネットマスク (共
通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/mask
↳--set <ネットマスク (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/dstaddr --set
↳<宛先 IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/
↳multicast/dstaddr --set <宛先 IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/srcaddr --set
↳<送信元 IP アドレス (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サ ー バ 名>/parameters/
↳multicast/srcaddr --set <送信元 IP アドレス (個別)> --nocheck
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set <ルーティング
プロトコル (共通)>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/protocol
```

```
↩ --set <ルーティングプロトコル (個別)> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

7.21.2 仮想 IP リソースのパラメータを設定する

基本情報

- グループリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。グループリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

依存関係

- 既定の依存関係に従う (既定値)

```
clpcfadm.py del rscdep vip vip1
```

- 依存するリソースを設定する

```
clpcfadm.py add rscdep vip vip1 <依存するリソース名>
```

- 依存するリソースなし

```
clpcfadm.py add rscdep vip vip1 ""
```

- 依存するリソースを削除する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/depend@<依存するリソース名> --delete
```

復旧動作

活性異常検出時の復旧動作

- 活性リトライしきい値

既定値:5 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/retry --set <設定値>
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/mode --set <設定値>
```

- フェイルオーバーしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを活性する)	0
何もしない (次のリソースを活性しない) (既定値)	1
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/path_
↪--set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/path_
↪--set preactaction.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

非活性異常検出時の復旧動作

• 非活性リトライしきい値

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/retry --set <設定値>
```

• 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (次のリソースを非活性する)	0
何もしない (次のリソースを非活性しない)	1
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/action --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

– ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

– ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/path_
↪ --set <ファイル>
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **predeactaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/path_
↪--set predeactaction.bat
```

– タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/deact/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

– 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/act/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

詳細

共通

• IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/ip --set <IP アドレス>
```

• ネットマスク

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/mask --set <ネットマ
スク>
```

• 宛先 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/dstaddr_
↪--set <宛先 IP アドレス>
```

• 送信元 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/srcaddr_
↪--set <送信元 IP アドレス>
```

• 送出間隔 (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:30)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/multicast/interval_
↪--set <設定値>
```

• ルーティングプロトコル

設定値

RIPngver1

次のページに続く

表 7.340 – 前のページからの続き

設定値
RIPngver2
RIPngver3
RIPver1 (既定値)
RIPver2

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set <設定値>
```

注釈: 複数のルーティングプロトコルを使用する場合はカンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocol --set
↳ "RIPngver3,RIPver2"
```

調整

パラメータ

- Ping 実行

Ping 実行	設定値
Ping 実行する (既定値)	1
Ping 実行しない	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/pingexec --set
↳ <設定値>
```

ping

- インターバル (秒)

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/pinginterval
↳ --set <設定値>
```

- タイムアウト (ミリ秒)

既定値:1000 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/pingtimeout
↳ --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:5 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/pingretry
↳ --set <設定値>
```

- NIC Link Down を異常と判定する

NIC Link Down を異常と判定する	設定値
判定する	1
判定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/monmii --set
↪ <設定値>
```

RIP

- メトリック

既定値:3 (最小値:1, 最大値:15)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/rip/
↪ metric --set <設定値>
```

ポート

- ポート

既定値:520 (最小値:1, 最大値:65535)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/
↪ rip/port --set <設定値>
```

注釈: 複数のポートを設定する場合は カンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/
↪ rip/port --set "12345, 520"
```

削除する (既定値に戻す)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/
↪ rip/port --set 520
```

RIPng

- メトリック

既定値:1 (最小値:1, 最大値:15)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/
↪ ripng/metric --set <設定値>
```

ポート

既定値:521 (最小値:1, 最大値:65535)

追加する

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/
↪ ripng/port --set <設定値>
```

注釈: 複数のポートを設定する場合はカンマ (,) で区切って指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/  
↳ripng/port --set "12345,521"
```

削除する (既定値に戻す)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/parameters/protocols/  
↳ripng/port --set 521
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/ip_  
↳--set <IP アドレス> --nocheck
```

- ネットマスク (15 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/  
↳mask --set <ネットマスク> --nocheck
```

- 宛先 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/  
↳multicast/dstaddr --set <宛先 IP アドレス> --nocheck
```

- 送信元 IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/  
↳multicast/srcaddr --set <送信元 IP アドレス> --nocheck
```

- 送出間隔 (秒)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/  
↳multicast/interval --set <送出間隔> --nocheck
```

- ルーティングプロトコル

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/server@<サーバ名>/parameters/  
↳protocol --set <ルーティングプロトコル> --nocheck
```

拡張

- リソース起動属性

リソース起動属性	設定値
自動起動 (既定値)	1
手動起動	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/start --set <設定値>
```

活性前後、非活性前後にスクリプトを実行する

注釈: スクリプトを「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- リソース活性前にスクリプトを実行する

リソース活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/use --set <設定値>
```

- リソース活性後にスクリプトを実行する

リソース活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性前にスクリプトを実行する

リソース非活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/use --set <設定値>
```

- リソース非活性後にスクリプトを実行する

リソース非活性後にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/default --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/default --set  
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/path --set <ファイル>
```

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/path --set <ファイル>
```

注釈: <ファイル>には、いずれも同じ値を設定してください。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **rscentent.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/path --set_
→rscentent.bat
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/path --set_
→rscentent.bat
```

- タイムアウト (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/timeout --set <設 定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/timeout --set <設
定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/timeout --set <設定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/timeout --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/preact/account --set <設 定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/predeact/account --set <設
定値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postact/account --set <設定
値>
clpcfadm.py mod -t resource/vip@vip1/postdeact/account --set
→<設定値>
```

注釈: <設定値>には、いずれも同じ値を設定してください。

7.21.3 仮想 IP リソースを削除する

グループリソース種別・グループリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del rsc <所属グループ名> vip vip1
```

重要: 削除するグループリソースに関連するモニタリソースなどは連動して削除しません。

第 8 章

モニタリソースを設定する

8.1 アプリケーション監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **appliw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.1.1 アプリケーション監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[アプリケーション監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon appliw appliw1
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.1.2 アプリケーション監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/polling/reconfirmation_
↳--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「アプリケーションリソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/polling/servers@<ID>/name_
↳--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/perf/metrics/use --set <設定値>
>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/script_
↳--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/
↳userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/restart_
↳--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.7 – 前のページからの続き

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*4}	16
グループ停止 ^{*5}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*4} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*5} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/appliw@appliw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.1.3 アプリケーション監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon appliw appliw1
```

8.2 AWS AZ 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsazw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.2.1 AWS AZ 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS AZ 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
アベイラビリティゾーン
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsazw awsazw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/availabilityzone_
  --set <アベイラビリティゾーン>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/name --set <回復対象>
  --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/type --set <回復対象種別>
  --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.2.2 AWS AZ 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/timeout/  
↪notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

共通

- アベイラビリティゾーン (45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/
↪availabilityzone --set <アベイラビリティゾーン>
```

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/parameters/mode --set <設定値>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- アベイラビリティゾーン (45 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/server@<サーバ名>/
↳parameters/availabilityzone --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/restart_
```

↪ `--set <設定値>`

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/
```

↪ `usefailover --set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/threshold/fo2_
```

↪ `--set <設定値>`

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/use_
```

↪ `--set <設定値>`

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*6}	16
グループ停止 ^{*7}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*6} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*7} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/
```

```
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsazw@awsazw1/emergency/preaction/
```

```
↪ account --set <実行ユーザ>
```

8.2.3 AWS AZ 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsazw awsazw1
```

8.3 AWS DNS 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsdns1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.3.1 AWS DNS 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS DNS 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsdns1 awsdns1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns1@awsdns1/relation/type --set <回復対象種
別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.3.2 AWS DNS 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/timeout/  
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:300 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/target --set <(活性時監視) 対
象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS DNS リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/perf/metrics/use --set <設
定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/parameters/mode --set <設定値>
```

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/parameters/dnscheck --set  
↪<設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/
```

```
↪ restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/
↪ fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set ↪
↪ 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/
↪ restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set ↪
↪ 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/
↪ script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/
↪ userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*8}	16
グループ停止 ^{*9}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

^{*8} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*9} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/  
↳path --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/  
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsdns@awsdns1/emergency/preaction/  
↳account --set <実行ユーザ>
```

8.3.3 AWS DNS 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsdns awsdns1
```

8.4 AWS Elastic IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awseipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.4.1 AWS Elastic IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS Elastic IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awseipw awseipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/type --set <回復対象種
別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.4.2 AWS Elastic IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/timeout/  
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/target --set <(活性時監視) 対
象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS Elastic IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/perf/metrics/use --set <設
定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set_
↳1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set_
↪1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*10}	16
グループ停止 ^{*11}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*10} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*11} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awseipw@awseipw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.4.3 AWS Elastic IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awseipw awseipw1
```

8.5 AWS セカンダリ IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awssipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.5.1 AWS セカンダリ IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS セカンダリ IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awssipw awssipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/type --set <回復対象種
別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.5.2 AWS セカンダリ IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/timeout/  
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/target --set <(活性時監視) 対
象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS セカンダリ IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/perf/metrics/use --set <設
定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set_
↳1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set_
↪1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/
↳ usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/threshold/fo2_
↳ --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/use_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*12}	16
グループ停止 ^{*13}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*12} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*13} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awssipw@awssipw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.5.3 AWS セカンダリ IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awssipw awssipw1
```

8.6 AWS 仮想 IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **awsvipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.6.1 AWS 仮想 IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[AWS 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon awsvipw awsvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/type --set <回復対象種
別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.6.2 AWS 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/timeout/  
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/target --set <(活性時監視) 対
象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「AWS 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/perf/metrics/use --set <設
定値>
```

監視 (固有)

- AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set_
↳1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set_
↪1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/
↳ usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/threshold/fo2_
↳ --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/use_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*14}	16
グループ停止 ^{*15}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*14} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*15} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/awsvipw@awsvipw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.6.3 AWS 仮想 IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon awsvipw awsvipw1
```

8.7 Azure DNS 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azurednsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.7.1 Azure DNS 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure DNS 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azurednsw azurednsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.7.2 Azure DNS 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/interval_
↳--set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/timeout --set
↳<設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/
↳reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:60 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Azure DNS リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/polling/servers@<ID>/
↳name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/perf/metrics/use_
↳--set <設定値>
```

監視 (固有)

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/parameters/dnscheck_
↳ --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↳ threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↳ threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action_
↳ --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↳threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action_
↳--set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/
↳script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/
↳userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/
↳restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/
↪ usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/mode --set
↪ <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/threshold/
↪ fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/preaction/
↪ use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*16}	16
グループ停止 ^{*17}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/action_
↪--set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↪preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↪preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/
↪preaction/path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*16} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*17} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/  
↪preaction/timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurednsw@azurednsw1/emergency/  
↪preaction/account --set <実行ユーザ>
```

8.7.3 Azure DNS 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azurednsw azurednsw1
```

8.8 Azure ロードバランス監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azurelbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.8.1 Azure ロードバランス監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azurelbw azurelbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.8.2 Azure ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/interval --set  
↪<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/timeout --set <設  
定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/timeout/  
↪notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/polling/servers@<ID>/
↪name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/perf/metrics/use --set
↪<設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/parameters/object --set
↪ <対象リソース>
```

注釈: 「Azure プローブポートリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/name --set <回復
対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/relation/type --set <回復
対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/
↪ restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/
↪ fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action_
↪ --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action_
↪--set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*18}	16
グループ停止 ^{*19}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/action --set
↳ <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*18} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*19} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azurelbw@azurelbw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.8.3 Azure ロードバランス監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azurelbw azurelbw1
```

8.9 Azure プロブポート監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **azureppw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.9.1 Azure プロブポート監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Azure プロブポート監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon azureppw azureppw1
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.9.2 Azure プロブポート監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/interval --set  
↪<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/timeout --set <設  
定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/timeout/  
↪notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/target --set <(活性時監視)
対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Azure プローブポートリソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/polling/servers@<ID>/
↪name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/perf/metrics/use --set
↪<設定値>
```

監視 (固有)

- プローブポート待ち受けタイムアウト時動作

AWS CLI コマンド応答取得失敗時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action_
↳--set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action_
↳--set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/
↳script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/
↳userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/
↳restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*20}	16
グループ停止 ^{*21}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/action --set
↳ <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

^{*20} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*21} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/azureppw@azureppw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.9.3 Azure プロープポート監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon azureppw azureppw1
```

8.10 CIFS 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **cifsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.10.1 CIFS 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[CIFS 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon cifsw cifsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.10.2 CIFS 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)
リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「CIFS リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが1つの場合は、IDに0を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- アクセスチェック

アクセスチェック	設定値
しない (既定値)	0
フォルダチェック	1
ファイルチェック	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/parameters/accesscheck --set  
↪ <設定値>
```

- パス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/parameters/checkpath_  
↪ --set <パス>
```

注釈: 「アクセスチェック」の設定が「フォルダチェック」「ファイルチェック」の場合に設定してください。

- チェック

チェック	設定値
読み書き	1
読み込み (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/parameters/checkmethod_  
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「アクセスチェック」の設定が「ファイルチェック」の場合に設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls

次のページに続く

表 8.114 – 前のページからの続き

	回復対象	回復対象種別
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/relation/name --set <回復対象>
↳ --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳ --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/
↳ restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/fo2
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/
↳ restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/script
↳ --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)


```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/threshold/fo2 --set
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*22}	16
グループ停止 ^{*23}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

^{*22} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*23} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/path_  
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/path_  
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/cifsw@cifsw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.10.3 CIFS 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon cifsw cifsw1
```

8.11 DB2 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **db2w1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.11.1 DB2 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[DB2 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon db2w db2w1
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/dbname --set <データベース名>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.11.2 DB2 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.123 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/timeout/notrecovery/  
↪use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.124 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/docreatedrop --set <設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/dbname --set <データベース名> --nocheck
```

- インスタンス名 (255 バイト以内)

既定値: DB2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/instance --set <インスタンス名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:db2watch

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/agentparam/tablename --set <監視  
テーブル名>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/name --set <回復対象>  
--nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/relation/type --set <回復対象種別>  
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart_  
↪--set 0  
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/fo2_  
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart_  
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*24}	16
グループ停止 ^{*25}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/path_
↪ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/path_
↪ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/db2w@db2w1/emergency/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

*24 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*25 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

8.11.3 DB2 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon db2w db2w1
```

8.12 ダイナミック DNS 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ddnsw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.12.1 ダイナミック DNS 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ダイナミック DNS 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ddnsw ddnsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.12.2 ダイナミック DNS 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/polling/reconfirmation --set  
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リ  
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「ダイナミック DNS リソース」のみ設定可能です。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 名前解決確認をする

名前解決確認をする	設定値
名前解決確認をする (既定値)	1
名前解決確認をしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/parameters/dnscheck --set <設 定  
値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0


```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/threshold/fo2 --set  
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*26}	16
グループ停止 ^{*27}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*26} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*27} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ddnsw@ddnsw1/emergency/preaction/
↳ account --set <実行ユーザ>
```

8.12.3 ダイナミック DNS 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ddnsw ddnsw1
```

8.13 ディスク RW 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **diskw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.13.1 ディスク RW 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「ディスク RW 監視リソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon diskw diskw1
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/name --set <回復対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.13.2 ディスク RW 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ファイル名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/file --set <ファイル名>  
> --nocheck
```

- I/O サイズ (バイト)

既定値:2000000 (最小値:1, 最大値:99999999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/size --set <設定値>  
↪ --nocheck
```

- ストール異常検出時動作

ストール異常検出時動作	設定値
何もしない	0
HW リセット	1
意図的なストップエラーの発生 (既定値)	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/stallaction --set  
↪ <設定値> --nocheck
```

- ディスクフル検出時動作

ディスクフル検出時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行する (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/diskfullerr --set
↳ <設定値> --nocheck
```

- Write Through 方式を有効にする

Write Through 方式を有効にする	設定値
有効にする	0
有効にしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/parameters/writecache --set <設定値> --nocheck
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/name --set <回復対象>
↳ --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳ --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/
↳ restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/fo2
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何

もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/  
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/script_  
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/  
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/restart_  
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/threshold/fo2 --set
↪<設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*28}	16
グループ停止 ^{*29}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/path_  
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/path_  
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

^{*28} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*29} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/  
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/diskw@diskw1/emergency/preaction/  
↪ account --set <実行ユーザ>
```

8.13.3 ディスク RW 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon diskw diskw1
```

8.14 フローティング IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **fipw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.14.1 フローティング IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[フローティング IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon fipw fipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.14.2 フローティング IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/timeout/
```

```
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↪use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- NIC Link Up/Down を監視する

NIC Link Up/Down を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/parameters/monmii --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart_
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/script_
↳ --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/userrestart_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/restart_
↳ --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/usefailover_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*30}	16
グループ停止 ^{*31}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4

次のページに続く

表 8.170 – 前のページからの続き

最終動作	設定値
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

*30 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

*31 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/fipw@fipw1/emergency/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.14.3 フローティング IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon fipw fipw1
```

8.15 FTP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ftpw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.15.1 FTP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[FTP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ftpw ftpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/name --set <回復対象>
↩--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.15.2 FTP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/agentparam/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:21 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/agentparam/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/agentparam/username --set <ユーザー名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/agentparam/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- プロトコル

プロトコル	設定値
FTP (既定値)	0
FTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/agentparam/protocol --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.181 – 前のページからの続き

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*32}	16
グループ停止 ^{*33}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

^{*32} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*33} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ftpw@ftpw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.15.3 FTP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ftpw ftpw1
```

8.16 Google Cloud DNS 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gcdnsw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.16.1 Google Cloud DNS 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud DNS 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gcdnsw gcdnsw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdnsw@gcdnsw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.16.2 Google Cloud DNS 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Google Cloud DNS リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns/perf/metrics/use --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/fo2_
↳--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdns1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0


```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/threshold/fo2
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/use
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*34}	16
グループ停止 ^{*35}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*34} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*35} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcdns@gcdnsw1/emergency/preaction/
↳ account --set <実行ユーザ>
```

8.16.3 Google Cloud DNS 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gcdns gcdnsw1
```

8.17 Google Cloud ロードバランス監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gclbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.17.1 Google Cloud ロードバランス監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gclbw gclbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.17.2 Google Cloud ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/parameters/object --set <対象リ
ソース>
```

注釈: 「Google Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/threshold/fo2 --set  
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*36}	16
グループ停止 ^{*37}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*36} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*37} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gclbw@gclbw1/emergency/preaction/
↳ account --set <実行ユーザ>
```

8.17.3 Google Cloud ロードバランス監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gclbw gclbw1
```

8.18 Google Cloud 仮想 IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **gcvipw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.18.1 Google Cloud 仮想 IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Google Cloud 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon gcvipw gcvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.18.2 Google Cloud 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Google Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/perf/metrics/use --set <設定値
>
```

監視 (固有)

- ヘルスチェックのタイムアウト時動作

ヘルスチェックのタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/fo2_
↳--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/  
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/script_  
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/  
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/restart_  
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.213 – 前のページからの続き

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*38}	16
グループ停止 ^{*39}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcviw@gcviw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcviw@gcviw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcviw@gcviw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcviw@gcviw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*38} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*39} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/
```

```
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/gcvipw@gcvipw1/emergency/preaction/
```

```
↪ account --set <実行ユーザ>
```

8.18.3 Google Cloud 仮想 IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon gcvipw gcvipw1
```

8.19 カスタム監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **genw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.19.1 カスタム監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[カスタム監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon genw genw1
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.19.2 カスタム監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- スクリプトファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「スクリプトファイル」も変更してください。

- スクリプトファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/path --set <スクリプトフ  
ァイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **genw.bat** を指定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/path --set genw.bat  
↪ --nocheck
```

- 監視タイプ

監視タイプ	設定値
同期 (既定値)	1
非同期	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/sync --set <設定値>
```

- 正常な戻り値

既定値:0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/normalval --set <設定値>
```

- 警告戻り値

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/warningval --set <設定値>
```

- 終了時アプリケーションを強制終了する

終了時アプリケーションを強制終了する	設定値
強制終了する	1
強制終了しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/termination --set <設定値>
```

- クラスタ停止時に活性時監視の停止を待ち合わせる

クラスタ停止時に活性時監視の停止を待ち合わせる	設定値
停止を待ち合わせる	1
停止を待ち合わせない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/waitstop --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/parameters/account --set  
↪ <実行ユーザ>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp

次のページに続く

表 8.227 – 前のページからの続き

	回復対象	回復対象種別
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)


```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*40}	16
グループ停止 ^{*41}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

^{*40} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*41} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/genw@genw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.19.3 カスタム監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon genw genw1
```

8.20 ハイブリッドディスクコネクタ監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **hdtw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.20.1 ハイブリッドディスクコネクタ監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスクコネクタ監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ハイブリッドディスクリソース
回復対象 (ハイブリッドディスクリソース名)
回復対象種別 (rsc)

```
clpcfadm.py add mon hdtw hdtw1
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/relation/name --set <ハイブリッドディスクリソース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/relation/type --set rsc --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.20.2 ハイブリッドディスクコネクタ監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ハイブリッドディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース>
```

注釈: 「ハイブリッドディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/usefailover_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/timeout_
↳ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdtw@hdtw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.20.3 ハイブリッドディスクコネクタ監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon hdtw hdtw1
```


8.21 ハイブリッドディスク監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **hdw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.21.1 ハイブリッドディスク監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ハイブリッドディスク監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ハイブリッドディスクリソース
回復対象 (ハイブリッドディスクリソース名)
回復対象種別 (rsc)

```
clpcfadm.py add mon hdw hdw1
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/relation/name --set <ハイブリッドディスクリソース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/relation/type --set rsc --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.21.2 ハイブリッドディスク監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:999 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/timeout/
```

```
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/timeout/notrecovery/use↪
```

```
↪--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ハイブリッドディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/parameters/object --set <ハイブリッドディスクリソース>
```

注釈: 「ハイブリッドディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/usefailover_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/path --set_
↪ preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/timeout_
```

```
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/hdw@hdw1/emergency/preaction/account_
```

```
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.21.3 ハイブリッドディスク監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon hdw hdw1
```

8.22 HTTP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **httpw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.22.1 HTTP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[HTTP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon httpw httpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.22.2 HTTP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 接続先 (255 バイト以内)

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/ipaddress --set <接
続先>
```

- ポート番号

既定値:80 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/port --set <設定値>
```

- 監視 URI(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/uri --set <Request_
↳URI>
```

- プロトコル

プロトコル	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/https --set <設定値>
```

注釈: 必要に応じて「ポート番号」も変更してください。

- リクエスト種別

リクエスト種別	設定値
HEAD (既定値)	0
GET	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/requesttype --set
↳<設定値>
```

- 認証方式

認証方式	設定値
認証なし (既定値)	0
Basic 認証	1
Digest 認証	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/authmethod --set <設
定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/username --set <ユ
ーザ名>
```

注釈: 「認証方式」の設定が「Basic 認証」「Digest 認証」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈: 「認証方式」の設定が「Basic 認証」「Digest 認証」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- クライアント認証

クライアント認証	設定値
設定する	1
設定しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/clientauth --set <設定値>
```

注釈: 「プロトコル」の設定が「HTTPS」の場合に設定可能です。

- クライアント証明書サブジェクト名 (64 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/agentparam/clientcertsubject_↵  
↵--set <クライアント証明書>
```

注釈: 「クライアント認証」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/threshold/fo2 --set  
↔<設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/use --set  
↔<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*42}	16
グループ停止 ^{*43}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*42} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*43} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/path_
↳--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/path_
↳--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/httpw@httpw1/emergency/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

8.22.3 HTTP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon httpw httpw1
```

8.23 IMAP4 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **imap4w1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.23.1 IMAP4 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[IMAP4 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon imap4w imap4w1
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.23.2 IMAP4 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/timeout/  
↪notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/perf/metrics/use --set <設定値
>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/agentparam/ipaddress --set  
↪ <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:143 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/agentparam/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/agentparam/username --set  
↪ <ユーザ名>
```

- パスワード (189 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/agentparam/password --set <暗  
号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
AUTHENTICATE LOGIN (既定値)	0
LOGIN	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/agentparam/certificate_  
↪ --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/fo2
↳--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/threshold/fo2
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/use
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*44}	16
グループ停止 ^{*45}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

^{*44} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*45} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/path_
↳--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/path_
↳--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/imap4w@imap4w1/emergency/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

8.23.3 IMAP4 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon imap4w imap4w1
```

8.24 IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ipw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.24.1 IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
IP アドレス
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ipw ipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID>/ip --set <IP アドレス> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.24.2 IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/timeout/notrecovery/use
```

```
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

追加する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID>/ip --set  
↪ <IP アドレス> --nocheck
```

注釈:

監視対象の IP アドレスが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象の IP アドレスが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:7)

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/list@<ID> --delete
```

- Ping タイムアウト (ミリ秒)

既定値:5000 (最小値:1, 最大値:999999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/parameters/pingtimeout --set <設定値>  
> --nocheck
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/script --set
↪ <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/userrestart_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/restart --set
↪ <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/usefailover_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*46}	16
グループ停止 ^{*47}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*46} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*47} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/path --set_
↪ preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ipw@ipw1/emergency/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.24.3 IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ipw ipw1
```

8.25 JVM 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **jraw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.25.1 JVM 監視リソースを追加する

注釈: JVM モニタリソースを作成する前にクラスタプロパティの JVM 監視にて Java インストールパスを設定してください。

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[JVM 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
JVM 種別
識別名
接続ポート番号
監視対象
回復対象
回復対象種別
JVM モニタリソース数

```
clpcfadm.py add mon jraw jraw1
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvmtype --set <JVM 種別>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/name --set <識別名>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/port --set <接続ポート番号>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/servertype --set <監視対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/name --set <回復対象>
↪ --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

```
--nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/targetnum --set <JVM モニタ  
リソース数>
```

注釈:

JVM モニタが 1 つの場合は、JVM モニタ数に 0 を指定してください。

JVM モニタが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。(最大値:24)

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.25.2 JVM 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視対象

監視対象	設定値 (targettypeid)	設定値 (servertype)
WebLogic Server (既定値)	0	weblogic
WebOTX ドメインエージェント	1	webotx
WebOTX プロセスグループ	2	sun
Tomcat	3	sun
WebOTX ESB	4	sun
WebSAM SVF	5	sun
Java アプリケーション	6	sun

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/targettypeid --set
```

↪ <設定値 (targettypeid)>

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/servertype --set
```

↪ <設定値 (servertype)>

- JVM 種別

設定値
Oracle Java (既定値)
Oracle Java(usage monitoring)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvmtype --set <設定値>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Oracle Java")

- 識別名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/name --set <識別名>
```

- 接続ポート番号

既定値:なし (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/user/id --set  
↪<ユーザ名>
```

注釈: 「監視対象」の設定が「WebOTX ドメインエージェント」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/user/passwd  
↪--set <暗号化されたパスワード>
```

注釈: 「監視対象」の設定が「WebOTX ドメインエージェント」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/jvm/action/down/  
↪runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。(例: "cmd")

調整

メモリ

「JVM 種別」の設定が「Oracle Java」の場合

- ヒープ使用率を監視する

ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heapgroup/check --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heap/check --set <設定値>
```

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heap/threshold --set <設定値>
```

– Eden Space

Eden Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳eden/check --set <設定値>
```

* Eden Space(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳eden/threshold --set <設定値>
```

– Survivor Space

Survivor Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ survivor/check --set <設定値>
```

* Survivor Space(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ survivor/threshold --set <設定値>
```

– Tenured Gen

Tenured Gen	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ tenured/check --set <設定値>
```

* Tenured Gen(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ tenured/threshold --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ heapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

- 非ヒープ使用率を監視する

非ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ nonheapgroup/check --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheap/check --set <設定値>
```

* 領域全体 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheap/threshold --set <設定値>
```

– Code Cache

Code Cache	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳codecash/check --set <設定値>
```

* Code Cache(%)

既定値:100 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳codecash/threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen

Perm Gen	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/check --set <設定値>
```

* Perm Gen(%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen[shared-ro]

Perm Gen[shared-ro]	設定値
監視する (既定値)	1

次のページに続く

表 8.302 – 前のページからの続き

Perm Gen[shared-ro]	設定値
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/ro/check --set <設定値>
```

* Perm Gen[shared-ro](%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/ro/threshold --set <設定値>
```

– Perm Gen[shared-rw]

Perm Gen[shared-rw]	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/rw/check --set <設定値>
```

* Perm Gen[shared-rw](%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳perm/rw/threshold --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

「JVM 種別」の設定が「**Oracle Java(usage monitoring)**」の場合

- ヒープ使用率を監視する

ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heapgroup/maxcheck --set <設定値>
```

– 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heap/check --set <設定値>
```

* 領域全体 (MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heap/maxsize --set <設定値>
```

– Eden Space

Eden Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳eden/check --set <設定値>
```

* Eden Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳eden/maxsize --set <設定値>
```

– Survivor Space

Survivor Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳survivor/check --set <設定値>
```

* Survivor Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳survivor/maxsize --set <設定値>
```

– Tenured Gen(Old Gen)

Tenured Gen(Old Gen)	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳tenured/check --set <設定値>
```

* Tenured Gen(Old Gen)(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳tenured/maxsize --set <設定値>
```

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳heapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

- 非ヒープ使用率を監視する

非ヒープ使用率を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheapgroup/maxcheck --set <設定値>
```

- 領域全体

領域全体	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheap/check --set <設定値>
```

* 領域全体 (MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheap/maxsize --set <設定値>
```

- Code Cache

Code Cache	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳codecash/check --set <設定値>
```

* Code Cache(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳codecash/maxsize --set <設定値>
```

– CodeHeap non-nmethods

CodeHeap non-nmethods	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonnmethods/check --set <設定値>
```

* CodeHeap non-nmethods(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonnmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– CodeHeap profiled

CodeHeap profiled	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳profilednmethods/check --set <設定値>
```

* CodeHeap profiled(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳profilednmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– CodeHeap non-profiled

CodeHeap non-profiled	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonprofilednmethods/check --set <設定値>
```

* CodeHeap non-profiled(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonprofilednmethods/maxsize --set <設定値>
```

注釈: 「Code Cache」の設定が「監視しない」の場合に設定してください。

– Compressed Class Space

Compressed Class Space	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/ccs/
↳check --set <設定値>
```

* Compressed Class Space(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳ccs/maxsize --set <設定値>
```

– Metaspace

Metaspace	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳metaspace/check --set <設定値>
```

* Metaspace(MB)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:102400)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳metaspace/maxsize --set <設定値>
```

– コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/memory/
↳nonheapgroup/action/down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

スレッド

- 動作中のスレッド数を監視する

動作中のスレッド数を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/count/
↳check --set <設定値>
```

– (スレッド)

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/
↳count/threshold --set <設定値>
```

注釈: 「動作中のスレッド数を監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/thread/action/
↳down/runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

- Full GC 実行時間を監視する

Full GC 実行時間を監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/time/check_
↪--set <設定値>
```

- (ミリ秒)

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/time/
↪threshold --set <設定値>
```

- Full GC 発生回数を監視する

Full GC 発生回数を監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/cont/check_
↪--set <設定値>
```

- (回)

既定値:1 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/cont/
↪threshold --set <設定値>
```

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/gc/action/down/
↪runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

注釈: 「監視対象」の設定が「WebLogic Server」の場合に設定してください。

- ワークマネージャのリクエストを監視する

ワークマネージャのリクエストを監視する	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/check_
→--set <設定値>
```

- 監視対象ワークマネージャ (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/work/
→manager --set <監視対象ワークマネージャ>
```

注釈: 「ワークマネージャのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

待機リクエスト

注釈: 「ワークマネージャのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
→requests/chkthreshold --set <設定値>
```

- リクエスト数

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/
→pending/requests/threshold --set <設定値>
```

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
→requests/avg/chkthreshold --set <設定値>
```

- 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/
→pending/requests/avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/pending/
→requests/chkincrement --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/wm/
→pending/requests/increment --set <設定値>
```

- スレッドプールのリクエストを監視する

スレッドプールのリクエストを監視する	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/check_
→--set <設定値>
```

待機リクエスト

注釈: 「スレッドプールのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してくだ

さい。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/  
→requests/chkthreshold --set <設定値>
```

- リクエスト数

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→pending/requests/threshold --set <設定値>
```

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/  
→requests/avg/chkthreshold --set <設定値>
```

- 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→pending/requests/avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/pending/  
→requests/chkincrement --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→pending/requests/increment --set <設定値>
```


実行リクエスト

注釈: 「スレッドプールのリクエストを監視する」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- リクエスト数

リクエスト数	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→throughput/chkthreshold --set <設定値>
```

- リクエスト数

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→throughput/threshold --set <設定値>
```

- 平均値

平均値	設定値
有効にする	1
有効にしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→throughput/avg/chkthreshold --set <設定値>
```

- 平均値

既定値:65535 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→throughput/avg/threshold --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率

前回計測値からの増加率	設定値
有効にする (既定値)	1
有効にしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/  
→throughput/chkincrement --set <設定値>
```

- 前回計測値からの増加率 (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/tp/
↳throughput/increment --set <設定値>
```

- コマンド (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/parameters/wl/action/down/
↳runcommand --set <コマンド>
```

注釈: パスを引用符で括ってください。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart
↳--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/fo2
↳--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart_
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/script_
↳ --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/userrestart_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/restart_
↳ --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.333 – 前のページからの続き

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*48}	16
グループ停止 ^{*49}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jrawl/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jrawl/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jrawl/emergency/preaction/path_
↪ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jrawl/emergency/preaction/path_
↪ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

^{*48} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*49} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/timeout_
```

```
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/jraw@jraw1/emergency/preaction/account_
```

```
↪--set <実行ユーザ>
```

8.25.3 JVM 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon jraw jraw1
```

8.26 ミラーディスク監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mdw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.26.1 ミラーディスク監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「ミラーディスク監視リソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ミラーディスクリソース
回復対象 (ミラーディスクリソース名)
回復対象種別 (rsc)

```
clpcfadm.py add mon mdw mdw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/parameters/object --set <ミラーディスクリ  
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/relation/name --set <ミラーディスクリソース  
名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/relation/type --set rsc --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.26.2 ミラーディスク監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:999 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/timeout/notrecovery/use
```

```
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:10 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ミラーディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/parameters/object --set <ミラーディスクリソース>
```

注釈: 「ミラーディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/default
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/path --set
↳ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/path --set
↳ preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/timeout
↳ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mdw@mdw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.26.3 ミラーディスク監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mdw mdw1
```

8.27 NIC Link Up/Down 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **miiw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.27.1 NIC Link Up/Down 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[NIC Link Up/Down 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
IP アドレス
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon miiw miiw1
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/server@<サーバ名>/parameters/object_
↳--set <IP アドレス> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/name --set <回復対象>_
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.27.2 NIC Link Up/Down 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)**個別に設定するサーバ**

サーバ毎に以下のように設定してください。

- IP アドレス

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/server@<サーバ名>/parameters/
↳object --set <IP アドレス> --nocheck
```

注釈: 削除する場合は以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/script
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/userrestart
```

```
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/restart_
```

```
↪ --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/usefailover_
```

```
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/threshold/fo2 --set <設
```

```
定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiwl/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*50}	16
グループ停止 ^{*51}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiwl/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiwl/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

^{*50} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*51} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/miiw@miiw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.27.3 NIC Link Up/Down 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon miiw miiw1
```

8.28 外部連携監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mrw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.28.1 外部連携監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[外部連携監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
カテゴリ
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon mrw mrw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/parameters/object --set <カテゴリ>
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.28.2 外部連携監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/interval --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

監視 (固有)

共通

- カテゴリ (32 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/parameters/object --set <カテゴリ>
```

- キーワード (1023 バイト以内)

```
clpcfset add monparam mrw mrwl parameters/target <キーワード>
```

個別に設定する

サーバ毎に以下のように設定してください。

- キーワード (1023 バイト以内)

```
clpcfset add monparam mrw mrwl server@<サーバ名>/parameters/target  
↳<キーワード>
```

注釈: 共通設定に戻す場合はサーバ毎に以下のように設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrwl/server@<サーバ名> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrwl/relation/name --set <回復対象>↳  
↳--nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrwl/relation/type --set <回復対象種別>↳  
↳--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrwl/emergency/action --set 1
```

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- サーバグループ外にフェイルオーバーする

サーバグループ外にフェイルオーバーする	設定値
サーバグループ外にフェイルオーバーする	1
サーバグループ外にフェイルオーバーしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/site --set <設定値>
```

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止	16
グループ停止	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/action --set <設定値>
```

- 回復動作前にスクリプトを実行する

回復動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/userestart_
↳ --set <設定値>
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/usefailover_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/default_↵  
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/path --set  
↪<ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/path --set_↵  
↪preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/timeout_↵  
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mrw@mrw1/emergency/preaction/account_↵  
↪--set <実行ユーザ>
```


8.28.3 外部連携監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mrw mrw1
```

8.29 マルチターゲット監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **mtw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.29.1 マルチターゲット監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[マルチターゲット監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象モニタリソース名
対象モニタリソースタイプ
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon mtw mtw1
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/member --set <対象モニタリソース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/type --set <対象モニタリソースタイプ> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi --set
↪1 --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.29.2 マルチターゲット監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミシング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- モニタリソース

追加する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/member_
```

```
→ --set <モニタリソース名> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID>/type_
```

```
→ --set <モニタリソースタイプ> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi_
```

```
↩ --set 1 --nocheck
```

注釈:

監視対象のモニタリソースが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のモニタリソースが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

注釈: 「モニタリソースタイプ」は以下を設定してください。

モニタリソースタイプ	設定値
アプリケーション監視リソース	appliw
AWS AZ 監視リソース	awsazw
AWS DNS 監視リソース	awsdns
AWS Elastic IP 監視リソース	awseipw
AWS セカンダリ IP 監視リソース	awssipw
AWS 仮想 IP 監視リソース	awsvipw
Azure DNS 監視リソース	azuredns
Azure ロードバランス監視リソース	azurelbw
Azure プローブポート監視リソース	azureppw
CIFS 監視リソース	cifsw
DB2 監視リソース	db2w
ディスク RW 監視リソース	diskw
フローティング IP 監視リソース	fipw
FTP 監視リソース	ftpw
Google Cloud DNS 監視リソース	gcdns
Google Cloud ロードバランス監視リソース	gclbw
Google Cloud 仮想 IP 監視リソース	gcvipw
カスタム監視リソース	genw
HTTP 監視リソース	httpw
IMAP4 監視リソース	imap4w
IP 監視リソース	ipw
JVM 監視リソース	jraw
NIC Link Up/Down 監視リソース	miiw
外部連携監視リソース	mrw
Oracle Cloud ロードバランス監視リソース	oclbw
Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソース	ocvipw
ODBC 監視リソース	odbcw

次のページに続く

表 8.367 – 前のページからの続き

モニタリソースタイプ	設定値
Oracle 監視リソース	oraclew
WebOTX 監視リソース	otxw
POP3 監視リソース	pop3w
PostgreSQL 監視リソース	psqlw
プロセスリソース監視リソース	psrw
プロセス名監視リソース	psw
ディスク TUR 監視リソース	sdw
サービス監視リソース	servicew
SMTP 監視リソース	smtpw
SQL Server 監視リソース	sqlserverw
システム監視リソース	sraw
Tuxedo 監視リソース	tuxw
仮想 IP 監視リソース	vipw
WebSphere 監視リソース	wasw
WebLogic 監視リソース	wls

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/list@<ID> --delete
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi_
↳ --set 0
```

調整

- 異常しきい値

異常しきい値	設定値
メンバ数に合わせる (既定値)	0
数を指定する	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/seterr --set <設定値>
```

- 数を指定する

既定値:64 (最小値:1, 最大値:64)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/errnum_
↳ --set <設定値>
```

- 警告しきい値 (数を指定する)

既定値:なし (最小値:1, 最大値:63)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/caunum --set <設定値>
```

注釈: 「異常しきい値」で「数を指定する」を選択している場合、「警告しきい値」は「異常しきい値」より小さい値を入力してください。

注釈: 「警告しきい値」を設定しない場合は 0 を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/parameters/info/caunum --set 0
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart_
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/script --set
↳ <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/userrestart_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/restart --set
↳ <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*52}	16
グループ停止 ^{*53}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/default
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/path --set
↳ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/path --set
↳ preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

^{*52} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*53} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/timeout_
```

```
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/mtw@mtw1/emergency/preaction/account_
```

```
↪--set <実行ユーザ>
```

8.29.3 マルチターゲット監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon mtw mtw1
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソースタイプ>@<モニタリソース名>/multi --set 0
```

8.30 Oracle Cloud ロードバランス監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **oclbw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.30.1 Oracle Cloud ロードバランス監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud* ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon oclbw oclbw1
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/parameters/object --set <対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.30.2 Oracle Cloud ロードバランス監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/reconfirmation --set
↳ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/polling/servers@<ID>/name_
↳ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/parameters/object --set <対象リ
ソース>
```

注釈: 「Oracle Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/script_  
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/  
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/restart_  
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/  
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0


```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/threshold/fo2 --set  
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/use --set  
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*54}	16
グループ停止 ^{*55}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*54} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*55} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oclbw@oclbw1/emergency/preaction/
↳ account --set <実行ユーザ>
```

8.30.3 Oracle Cloud ロードバランス監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon oclbw oclbw1
```

8.31 Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **ocvipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.31.1 Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「*Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する*」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon ocvipw ocvipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.31.2 Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してくだ

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「Oracle Cloud 仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/polling/servers@<ID>/name_
↪--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/perf/metrics/use --set <設定値
>
```

監視 (固有)

- ヘルスチェックのタイムアウト時動作

ヘルスチェックのタイムアウト時動作	設定値
回復動作を実行しない (警告を表示しない) (既定値)	0
回復動作を実行しない (警告を表示する)	1
回復動作を実行する	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/parameters/mode --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/
```

```
↪ restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/fo2_
```

```
↪ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/script_
↳--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/
↳userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/restart_
↳--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.394 – 前のページからの続き

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*56}	16
グループ停止 ^{*57}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*56} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*57} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/ocvipw@ocvipw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.31.3 Oracle Cloud 仮想 IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon ocvipw ocvipw1
```

8.32 ODBC 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **odbcw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.32.1 ODBC 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ODBC 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon odbcw odbcw1
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/dbname --set <データソース名>
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.32.2 ODBC 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.401 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/timeout/notrecovery/
↪ use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.402 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/docreatedrop --set  
↪ <設定値>
```

- データソース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/dbname --set <データ  
ソース名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/username --set <ユー  
ザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/password --set <暗号  
化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:ODBCWATCH

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/agentparam/tablename --set <監  
視テーブル名>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0


```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/threshold/fo2 --set  
↔<設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/use --set  
↔<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*58}	16
グループ停止 ^{*59}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*58} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*59} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/path_
↳--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/path_
↳--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/odbcw@odbcw1/emergency/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

8.32.3 ODBC 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon odbcw odbcw1
```

8.33 Oracle 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **oraclew1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.33.1 Oracle 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Oracle 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
接続文字列
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon oraclew oraclew1
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/dbname --set <接続文
字列> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/type --set <回復対象種
別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.33.2 Oracle 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/reconfirmation_
↳--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/target --set <(活性時監視) 対
象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/polling/servers@<ID>/name_
↳--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視方式

監視方式	設定値
リスナーとインスタンスを監視 (既定値)	0
リスナーのみ監視	1
インスタンスのみ監視	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/monmethod_
↪ --set <設定値>
```

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 0(データベースステータス)	2
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/docreatedrop_
↪ --set <設定値>
```

- 接続文字列 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/dbname --set <接続文字列> --nocheck
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:sys

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/username --set
↪ <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/password --set
↳ <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

• OS 認証

OS 認証	設定値
OS 認証する	1
OS 認証しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/os --set <設定値>
```

• 認証方式

認証方式	設定値
SYSDBA (既定値)	0
DEFAULT	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/certificate_
↳ --set <設定値>
```

• 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:ORAWATCH

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/tablename_
↳ --set <監視テーブル名>
```

• ORACLE_HOME(255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/oraclehome_
↳ --set <ORACLE_HOME>
```

• 文字コード

設定値
(Following the setting of the application)

次のページに続く

表 8.419 – 前のページからの続き

設定値
AMERICAN_AMERICA.US7ASCII

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/charsetset_  
↳ --set <設定値> --nocheck
```

- 障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する

障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する	設定値
採取する	1
採取しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/infocollect/use_  
↳ --set <設定値>
```

- 採取タイムアウト (秒)

既定値:600 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/infocollect/  
↳ timeout --set <設定値>
```

注釈: 「障害発生時にアプリケーションの詳細情報を採取する」の設定が「採取する」場合に設定してください。

- Oracle の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする

Oracle の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする	設定値
エラーにする	1
エラーにしない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/agentparam/ignoreuse_  
↳ --set <設定値>
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set_
↳1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set_
↳1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/  
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/  
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*60}	16
グループ停止 ^{*61}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

^{*60} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*61} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↳ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↳ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↳ path --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↳ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/oraclew@oraclew1/emergency/preaction/  
↳ account --set <実行ユーザ>
```

8.33.3 Oracle 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon oraclew oraclew1
```

8.34 WebOTX 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **otxw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.34.1 WebOTX 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebOTX 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon otxw otxw1
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/username --set <ユーザ名>
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.34.2 WebOTX 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.431 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↪ use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.432 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 接続先 (255 バイト以内)

既定値:localhost

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/servername --set <接 続  
先>
```

- ポート番号

既定値:6212 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/username --set <ユ ー ザ  
名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/password --set <暗 号 化  
されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- インストールパス (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/parameters/installpath --set <イ  
ンストールパス>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*62}	16
グループ停止 ^{*63}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*62} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*63} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/path_
↪ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/path_
↪ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/otxw@otxw1/emergency/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.34.3 WebOTX 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon otxw otxw1
```

8.35 POP3 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **pop3w1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.35.1 POP3 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[POP3 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon pop3w pop3w1
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.35.2 POP3 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/timeout/
```

```
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↪use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/agentparam/ipaddress --set <IP
アドレス>
```

- ポート番号

既定値:110 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/agentparam/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/agentparam/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/agentparam/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
APOP (既定値)	0
USER/PASS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/agentparam/certificate --set  
↪ <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/name --set <回復対象>  
↪ --nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/relation/type --set <回復対象種別>
```

```
> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/fo2_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/threshold/fo2 --set
↪<設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.449 – 前のページからの続き

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/use --set
↳ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*64}	16
グループ停止 ^{*65}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/
↳ default --set <設定値>
```

^{*64} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*65} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/pop3w@pop3w1/emergency/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.35.3 POP3 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon pop3w pop3w1
```

8.36 PostgreSQL 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psqlw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.36.1 PostgreSQL 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[PostgreSQL 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psqlw psqlw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/dbname --set <データベース名> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.36.2 PostgreSQL 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.454 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↪ use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/reconfirmation --set  
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/target --set <(活性時監視) 対象リ  
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/polling/servers@<ID>/name_  
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.455 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/docreatedrop --set
↪<設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/dbname --set <データ
ベース名> --nocheck
```

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/ipaddress --set <IP
アドレス>
```

- ポート番号

既定値:5432 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:postgres

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/username --set <ユ
ーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/password --set <暗 号
化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:PSQLWATCH

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/tablename --set <監視テーブル名>
```

- PostgreSQL の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする

PostgreSQL の初期化中またはシャットダウン中をエラーにする	設定値
エラーにする (既定値)	1
エラーにしない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/agentparam/ignoreuse --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/relation/type --set <回復対象種別>
> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/fo2
↳--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/script
↳--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/
↳userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/threshold/fo2 --set
↪<設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/use --set
↪<設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*66}	16
グループ停止 ^{*67}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/  
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/path_  
↪ --set <ファイル> --nocheck
```

^{*66} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*67} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psqlw@psqlw1/emergency/preaction/
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.36.3 PostgreSQL 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psqlw psqlw1
```

8.37 プロセスリソース監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psrw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.37.1 プロセスリソース監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「プロセスリソース監視リソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psrw psrw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.37.2 プロセスリソース監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.466 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- プロセス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/name --set <プロセス名>
```

- CPU 使用率の監視

CPU 使用率の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/docheck_
↳ --set <設定値>
```

- 使用率 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/
↳ rate --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 継続時間 (分)

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:4320)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/cpu/
↳ count --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- メモリ使用量の監視

メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/
```

```
↪docheck --set <設定値>
```

- 初回監視時からの増加率 (%)

既定値:10 (最小値:1, 最大値:1000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/
```

```
↪rate --set <設定値>
```

注釈: 「メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 最大更新回数

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:4320)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/memory/
```

```
↪count --set <設定値>
```

注釈: 「メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- オープンファイル数の監視 (最大値)

オープンファイル数の監視 (最大値)	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/fileleak/
```

```
↪docheck --set <設定値>
```

- 更新回数

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:4320)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/
```

```
↪fileleak/count --set <設定値>
```

注釈: 「オープンファイル数の監視 (最大値)」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- スレッド数の監視

スレッド数の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/thread/  
↪docheck --set <設定値>
```

- 継続時間 (分)

既定値:1440 (最小値:1, 最大値:4320)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/thread/  
↪count --set <設定値>
```

注釈: 「スレッド数の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

- 同一名プロセスの監視

同一名プロセスの監視	設定値
監視する	1
監視しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/proccount/  
↪docheck --set <設定値>
```

- 個数

既定値:100 (最小値:1, 最大値:10000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/parameters/process/  
↪proccount/number --set <設定値>
```

注釈: 「同一名プロセスの監視」の設定が「監視する」場合に設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*68}	16
グループ停止 ^{*69}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*68} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*69} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psrw@psrw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.37.3 プロセスリソース監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psrw psrw1
```

8.38 プロセス名監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **psw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.38.1 プロセス名監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「プロセス名監視リソースのパラメータを設定する」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
プロセス名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon psw psw1
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processname --set <プロセス名>
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.38.2 プロセス名監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/timeout/notrecovery/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/polling/servers@<ID>/name --set  
↪ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- プロセス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processname --set <プロセス名>
```

- プロセス数下限値

既定値:1 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/parameters/processnum --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/script --set
↪<設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/restart --set
↪ <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/usefailover_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/threshold/fo2 --set <設 定
値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/use --set <設 定
値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*70}	16
グループ停止 ^{*71}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/path --set
↪ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

^{*70} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*71} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/path --set_↵  
↵preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/timeout_↵  
↵--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/psw@psw1/emergency/preaction/account_↵  
↵--set <実行ユーザ>
```

8.38.3 プロセス名監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon psw psw1
```

8.39 レジストリ同期監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **regsyncw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.39.1 レジストリ同期監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[レジストリ同期監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon regsyncw regsyncw1
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.39.2 レジストリ同期監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/polling/interval --set  
↪<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/timeout/  
↪notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください

さい。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/polling/reconfirmation_
↪--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/target --set <(活性時監視)
対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「レジストリ同期リソース」のみ設定可能です。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/perf/metrics/use --set
↪<設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/relation/name --set <回復
対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/relation/type --set <回復
対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/action_
↳--set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/action_
↳--set 1
```

-
- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/
↳script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/threshold/fo2_
↪--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/use_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*72}	16
グループ停止 ^{*73}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/action --set
↪<設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1

次のページに続く

^{*72} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*73} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

表 8.501 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/  
↪path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/  
↪path --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/regsyncw@regsyncw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.39.3 レジストリ同期監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon regsyncw regsyncw1
```

8.40 ディスク TUR 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sdw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.40.1 ディスク TUR 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ディスク TUR 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
ディスクリソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sdw sdw1
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/parameters/object --set <ディスクリソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/relation/name --set <回復対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.40.2 ディスク TUR 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/timeout/notrecovery/use_  
↳--set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミング

監視タイミング	設定値
常時 (既定値)	0
活性時	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミング」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈:

本モニタリソースでは「ディスクリソース」のみ設定可能です。

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/polling/servers@<ID>/name --set
↪ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- ディスクリソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/parameters/object --set <ディスク
リソース>
```

注釈: 「ディスクリソース」のみ設定可能です。

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/relation/name --set <回復対象>
```

```
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/script --set
↪<設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/userrestart
```

```
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/restart --set
```

```
↪ <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/usefailover_
```

```
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定
```

```
値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*74}	16
グループ停止 ^{*75}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

^{*74} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*75} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/path --set  
↳ <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/path --set  
↳ preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/timeout  
↳ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sdw@sdw1/emergency/preaction/account  
↳ --set <実行ユーザ>
```

8.40.3 ディスク TUR 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sdw sdw1
```

8.41 サービス監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **servicew1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.41.1 サービス監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[サービス監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
サービス名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon servicew servicew1
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/target --set <(活性時監視) 対象
リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/parameters/name --set <サービ
ス名>
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/relation/name --set <回復対象
> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/relation/type --set <回復対象
種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.41.2 サービス監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/polling/interval --set  
↪<設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/timeout/  
↪notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/polling/reconfirmation_
↳--set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:3 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視タイミグ

監視タイミグ	設定値
常時	0
活性時 (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/polling/timing --set <設定値>
```

注釈: 「監視タイミグ」の設定が「活性時」の場合「(活性時監視) 対象リソース」を設定してください。

重要: 「監視タイミグ」の設定を「常時」に変更する場合は「監視対象リソース」に 空文字 ("") を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/target --set ""
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/target --set <(活性時監視)
対象リソース>
```

注釈: 「監視タイミング」の設定が「活性時」の場合に設定してください。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/polling/servers@<ID>/
↪name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/perf/metrics/use --set
↪<設定値>
```

監視 (固有)

- サービス名 (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/parameters/name --set
↪<サービス名>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/relation/name --set <回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/relation/type --set <回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/
↳fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/action_
↳--set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/
↳restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/action_
↳--set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/  
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/  
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/threshold/fo2_
↳--set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/use_
↳--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*76}	16
グループ停止 ^{*77}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

^{*76} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*77} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/action --set  
↪ <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪ default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪ path --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪ path --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪ timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/servicew@servicew1/emergency/preaction/  
↪ account --set <実行ユーザ>
```

8.41.3 サービス監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon servicew servicew1
```

8.42 SMTP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **smtpw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.42.1 SMTP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[SMTP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon smtpw smtpw1
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.42.2 SMTP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)


```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/reconfirmation --set
↪ <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/target --set <(活性時監視) 対象リ
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/polling/servers@<ID>/name_
↪ --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/ipaddress --set <IP
アドレス>
```

- ポート番号

既定値:25 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/port --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/username --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- 認証方式

設定値
CRAM-MD5 (既定値)
LOGIN

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/certificate --set  
↪ <設定値>
```

- メールアドレス (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/agentparam/mailaddress --set  
↪ <メールアドレス>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/script
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1

次のページに続く

表 8.532 – 前のページからの続き

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/threshold/fo2 --set
```

↪ <設定値>

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/use --set
```

↪ <設定値>

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*78}	16
グループ停止 ^{*79}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

^{*78} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*79} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/  
↪default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/path_  
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/path_  
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/  
↪timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/smtpw@smtpw1/emergency/preaction/  
↪account --set <実行ユーザ>
```

8.42.3 SMTP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon smtpw smtpw1
```

8.43 SQL Server 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sqlserverw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.43.1 SQL Server 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[SQL Server 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
データベース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sqlserverw sqlserverw1
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/target --set <(活性時監視)
対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/dbname_
↪--set <データベース名>
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/name --set <回
復対象> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/type --set <回
復対象種別> --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.43.2 SQL Server 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/interval_
↳--set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/timeout_
↳--set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/timeout/
↳notrecovery/use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/
↳reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/firstmonwait --set
↳<設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/target --set <(活性時
監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/polling/servers@<ID>
↳/name --set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが1つの場合は、IDに0を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2...のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/perf/metrics/use_
↳ --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視レベル

監視レベル	設定値
レベル 0(データベースステータス)	2
レベル 1(select での監視)	3
レベル 2(update/select での監視) (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/
↳ docreatedrop --set <設定値>
```

- データベース名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/dbname_
↳ --set <データベース名>
```

- インスタンス名 (255 バイト以内)

既定値:MSSQLSERVER

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/instance_
↳ --set <インスタンス名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:SA

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/username_
↳ --set <ユーザ名>
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/password_
↳ --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- 監視テーブル名 (255 バイト以内)

既定値:SQLWATCH

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/  
↪tablename --set <監視テーブル名>
```

- ODBC ドライバ名 (255 バイト以内)

ODBC ドライバ名
SQL Server Native Client 11.0
ODBC Driver 13 for SQL Server (既定値)
ODBC Driver 17 for SQL Server
SQL Server

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/agentparam/odbcname_  
↪--set <ODBC ドライバ名>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/name --set  
↪<回復対象> --nocheck
```

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/relation/type --set  
↪<回復対象種別> --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/
```

```
↪threshold/restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/
↪threshold/fo2 --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action_
↪--set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/
↪threshold/restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action_
↪--set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/
↪script --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/
↪restart --set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/mode_
↪--set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/threshold/
↪fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/preaction/
↪use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

• 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*80}	16
グループ停止 ^{*81}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/action_
↪--set <設定値>
```

スクリプト設定

• ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/
↪preaction/default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

• ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/
↪preaction/path --set <ファイル> --nocheck
```

^{*80} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*81} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/  
↪preaction/path --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/  
↪preaction/timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sqlserverw@sqlserverw1/emergency/  
↪preaction/account --set <実行ユーザ>
```

8.43.3 SQL Server 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sqlserverw sqlserverw1
```


8.44 システム監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **sraw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.44.1 システム監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[システム監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon sraw sraw1
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.44.2 システム監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:60 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/polling/timeout --set <設定値>
```

- リトライ回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/polling/servers@<ID>/name --set  
↪<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.552 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- CPU 使用率の監視

CPU 使用率の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/cpu/docheck_
↪--set <設定値>
```

– 使用率 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/cpu/
↪rate --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:84600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/cpu/
↪time --set <設定値>
```

注釈: 「CPU 使用率の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 総メモリ使用量の監視

総メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/memory/
↪docheck --set <設定値>
```

– 使用量 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/memory/
↪rate --set <設定値>
```

注釈: 「総メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:84600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/memory/
↪time --set <設定値>
```

注釈: 「総メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

• 総仮想メモリ使用量の監視

総仮想メモリ使用量の監視	設定値
監視する (既定値)	1
監視しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/swap/docheck_
↪--set <設定値>
```

– 使用量 (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/swap/
↪rate --set <設定値>
```

注釈: 「総仮想メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

– 継続時間 (秒)

既定値:3600 (最小値:60, 最大値:84600)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/system/swap/
↪time --set <設定値>
```

注釈: 「総仮想メモリ使用量の監視」の設定が「監視する」の場合に設定してください。

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

異常判定条件

追加する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/
↪mountpoint --set <論理ドライブ> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/docheck_
↪rate --set <使用率> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/warning_
↪rate --set <(使用率) 警告レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/notice_
↪rate --set <(使用率) 通知レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/rate_
↪time --set <(使用率) 継続時間> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/docheck_
↪size --set <空き容量> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/warning_
↪size --set <(空き容量) 警告レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/notice_
↪size --set <(空き容量) 通知レベル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/parameters/diskcap@<ID>/size_
↪time --set <(空き容量) 継続時間> --nocheck
```

注釈:

異常判定条件が 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

異常判定条件が複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 論理ドライブ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/
↳mountpoint --set <ドライブ文字> --nocheck
```

監視タイプ

- 使用率

使用率	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/
↳docheck_rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「使用率」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- 警告レベル (%)

既定値:90 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/
↳warning_rate --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 警告レベル値は通知レベル値以上の値を入力してください。

- 通知レベル (%)

既定値:80 (最小値:1, 最大値:100)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/
↳notice_rate --set <設定値> --nocheck
```

- 継続時間 (秒)

既定値:86400 (最小値:60, 最大値:2592000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/
↳rate_time --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

- 空き容量

空き容量	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/  
→docheck_size --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 「空き容量」の設定が「設定する」の場合に設定してください。

- 警告レベル (MB)

既定値:500 (最小値:1, 最大値:4294967295)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/  
→warning_size --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 警告レベル値は通知レベル値以下の値を入力してください。

- 通知レベル (MB)

既定値:1000 (最小値:1, 最大値:4294967295)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/  
→notice_size --set <設定値> --nocheck
```

- 継続時間 (秒)

既定値:86400 (最小値:60, 最大値:2592000)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID>/  
→size_time --set <設定値> --nocheck
```

注釈: 秒 (60 で割り切れる値) で設定してください。

削除する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/parameters/diskcap@<ID> --delete
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*82}	16
グループ停止 ^{*83}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@sraw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*82} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*83} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/sraw@srawl/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.44.3 システム監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon sraw srawl
```

8.45 Tuxedo 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **tuxw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.45.1 Tuxedo 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[Tuxedo 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
TUXCONFIG ファイル
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon tuxw tuxw1
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/tuxconfig --set
↳<TUXCONFIG ファイル> --nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/name --set <回 復 対 象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/type --set <回 復 対 象 種 別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.45.2 Tuxedo 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/timeout/
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.567 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳ use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/polling/servers@<ID>/name --set
↳ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.568 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- アプリケーションサーバ名 (255 バイト以内)

既定値:BBL

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/servername --set <ア プ  
リケーションサーバ名>
```

- TUXCONFIG ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/parameters/tuxconfig --set  
↪<TUXCONFIG ファイル> --nocheck
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/name --set <回 復 対 象>  
--nocheck  
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/relation/type --set <回復対象種別>_  
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart_  
↪--set 0  
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/fo2_  
↪--set 0
```

```
↪ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart_
↪ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/script_
↪ --set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/userrestart_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/restart_
↪ --set <設定値>
```


- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/usefailover_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*84}	16
グループ停止 ^{*85}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*84} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*85} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/timeout_
```

```
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/tuxw@tuxw1/emergency/preaction/account_
```

```
↪--set <実行ユーザ>
```

8.45.3 Tuxedo 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon tuxw tuxw1
```

8.46 ユーザ空間監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **userw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.46.1 ユーザ空間監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[ユーザ空間監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
回復対象 (LocalServer)
回復対象種別 (cls)

```
clpcfadm.py add mon userw userw1
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/relation/name --set LocalServer_
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/relation/type --set cls --nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.46.2 ユーザ空間監視リソースのパラメータを設定する

情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:30 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:300 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/polling/servers@<ID>/name_
↳--set <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- 監視方法

設定値
keepalive (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/method --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
何もしない	0
HW リセット	1
意図的なストップエラーの発生 (既定値)	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/stallaction --set  
↪ <設定値>
```

- ダミースレッドの作成

ダミースレッドの作成	設定値
設定する (既定値)	1
設定しない	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/userw@userw1/parameters/mkthread --set <設 定  
値>
```

回復動作

本モニタリソースでは設定できません。

8.46.3 ユーザ空間監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon userw userw1
```

8.47 仮想コンピュータ名監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **vcomw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.47.1 仮想コンピュータ名監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想コンピュータ名監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon vcomw vcomw1
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/relation/name --set <回復対象>
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/relation/type --set <回復対象種別>
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.47.2 仮想コンピュータ名監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/timeout/notrecovery/  
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/polling/reconfirmation --set
```

↪ <設定値>

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/target --set <(活性時監視) 対象リ  
ソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/polling/servers@<ID>/name_
```

↪ --set <サーバ名> --nocheck

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp

次のページに続く

表 8.585 – 前のページからの続き

	回復対象	回復対象種別
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/
↪restart --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/script
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/
↪userrestart --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/
↪usefailover --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/threshold/fo2 --set
↪ <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/use --set
↪ <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*86}	16
グループ停止 ^{*87}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1

次のページに続く

^{*86} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*87} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

表 8.591 – 前のページからの続き

スクリプトファイル種別	設定値
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/
↳default --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/path_
↳--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/path_
↳--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/
↳timeout --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vcomw@vcomw1/emergency/preaction/
↳account --set <実行ユーザ>
```

8.47.3 仮想コンピュータ名監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon vcomw vcomw1
```

8.48 仮想 IP 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **vipw1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.48.1 仮想 IP 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon vipw vipw1
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/name --set <回復対象>
↪--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.48.2 仮想 IP 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:180 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする	0
リトライしない (既定値)	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する	0
回復動作を実行しない (既定値)	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

注釈: 本モニタリソースでは「仮想 IP リソース」のみ設定可能です。

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:3 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない (既定値)	1
リソース停止 ^{*88}	16
グループ停止 ^{*89}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*88} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*89} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/default_
↪--set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/path_
↪--set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/path_
↪--set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/timeout_
↪--set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/vipw@vipw1/emergency/preaction/account_
↪--set <実行ユーザ>
```

8.48.3 仮想 IP 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon vipw vipw1
```

8.49 WebSphere 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **wasw1** を使用しています。

ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.49.1 WebSphere 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebSphere 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
ユーザ名
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon wasw wasw1
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/username --set <ユーザ名>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/name --set <回復対象>
↳--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.49.2 WebSphere 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)

リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。

- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクオートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/timeout/  
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1

次のページに続く

表 8.605 – 前のページからの続き

タイムアウト発生時動作	設定値
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/timeout/notrecovery/
↳ use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/polling/servers@<ID>/name --set
↳ <サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1

次のページに続く

表 8.606 – 前のページからの続き

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- アプリケーションサーバ名 (255 バイト以内)

既定値:server1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/server --set <アプリケーションサーバ名>
```

- プロファイル名 (1023 バイト以内)

既定値:default

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/profile --set <プロファイル名>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/username --set <ユーザ名> --nocheck
```

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

- インストールパス (1023 バイト以内)

インストールパス
C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/parameters/installpath --set <インストールパス>
```


回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/relation/type --set <回復対象種別>
↪--nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/fo2
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*90}	16
グループ停止 ^{*91}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

^{*90} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*91} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/default_
↪ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/path_
↪ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/path_
↪ --set preaction.bat --nocheck
```

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/timeout_
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wasw@wasw1/emergency/preaction/account_
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.49.3 WebSphere 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon wasw wasw1
```

8.50 WebLogic 監視リソース

注釈:

本章で記載しているコマンドラインはモニタリソース名に **wls1** を使用しています。
ご使用の環境に合わせて変更してください。

8.50.1 WebLogic 監視リソースを追加する

以下の項目を必ず設定してください。詳細は「[WebLogic 監視リソースのパラメータを設定する](#)」を参照してください。

設定項目 (必須)
モニタリソース名
(活性時監視) 対象リソース
回復対象
回復対象種別

```
clpcfadm.py add mon wls1 wls1
clpcfadm.py mod -t monitor/wls1@wls1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
clpcfadm.py mod -t monitor/wls1@wls1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wls1@wls1/relation/type --set <回復対象種別>
--nocheck
```

注釈: 設定項目 (必須) のみを設定した場合、設定項目 (必須) 以外のパラメータは既定値が適用されます。

8.50.2 WebLogic 監視リソースのパラメータを設定する

基本情報

- モニタリソース名 (31 バイト以内)
リソース追加時に設定しています。モニタリソース名を変更したい場合は、リソースを削除し再設定してください。
- コメント (127 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/comment --set <コメント>
```

注釈: 空白を含む文字列はダブルクォートで囲んでください。(例:"Sample Comment")

監視 (共通)

- インターバル (秒)

既定値:60 (最小値:1, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/interval --set <設定値>
```

- タイムアウト (秒)

既定値:120 (最小値:5, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/timeout --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時にリトライしない	設定値
リトライする (既定値)	0
リトライしない	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/timeout/
```

```
↳notreconfirmation/use --set <設定値>
```

- タイムアウト発生時動作

タイムアウト発生時動作	設定値
回復動作を実行する (既定値)	0
回復動作を実行しない	1
意図的なストップエラーの発生	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/timeout/notrecovery/
```

```
↳use --set <設定値>
```

注釈: 「タイムアウト発生時にリトライしない」の設定が「リトライしない」の場合に設定してください。

- リトライ回数

既定値:2 (最小値:0, 最大値:999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/reconfirmation --set <設定値>
```

- 監視開始待ち時間 (秒)

既定値:0 (最小値:0, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/firstmonwait --set <設定値>
```

- (活性時監視) 対象リソース

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/target --set <(活性時監視) 対象リソース>
```

- 監視を行うサーバを選択する

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/polling/servers@<ID>/name --set  
→<サーバ名> --nocheck
```

注釈:

監視対象のサーバが 1 つの場合は、ID に 0 を指定してください。

監視対象のサーバが複数の場合は、0, 1, 2 … のように連続する数字を指定してください。

- 監視処理時間メトリクスを送信する

監視処理時間メトリクスを送信する	設定値
送信する	1
送信しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/perf/metrics/use --set <設定値>
```

監視 (固有)

- IP アドレス

既定値:127.0.0.1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/ipaddress --set <IP アドレス>
```

- ポート番号

既定値:7002 (最小値:1, 最大値:65535)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/port --set <設定値>
```

- 監視方式

監視方式	設定値
RESTful API (既定値)	3
WLST	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/checkmethod --set <設定値>
```

- プロトコル

プロトコル	設定値
HTTP (既定値)	0
HTTPS	1

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/https --set <設定値>
```

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値:weblogic

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/restusername --set  
↪<ユーザ名>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「RESTful API」の場合に設定可能です。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/restpassword --set <暗  
号化されたパスワード>
```

注釈: 「監視方法」の設定が「RESTful API」の場合に設定可能です。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「パスワードを暗号化した文字列を取得する」を参照してください。

アカウントの隠蔽

注釈: 「監視方法」が「WLST」の場合に設定してください。

- アカウントの隠蔽

アカウントの隠蔽	設定値
隠蔽する	1
隠蔽しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/shadow --set <設定値>
```

- コンフィグファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/configfile --set  
→ <コンフィグファイル>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽する」の場合に設定してください。

- キーファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/keyfile --set <キー  
ファイル>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽する」の場合に設定してください。

- ユーザ名 (255 バイト以内)

既定値: weblogic

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/username --set  
→ <ユーザ名>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽しない」の場合に設定してください。

- パスワード (255 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/password --set <暗号化されたパスワード>
```

注釈: 「アカウントの隠蔽」の設定が「隠蔽しない」の場合に設定してください。

注釈:

パスワードを暗号化した文字列を設定してください。

詳細は「[パスワードを暗号化した文字列を取得する](#)」を参照してください。

認証方式

注釈: 「監視方法」の設定が「WLST」の場合に設定してください。

- 認証方式

認証方式	設定値
Not Use SSL	0
DemoTrust (既定値)	1
CustomTrust	2

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/authority --set <設定値>
```

- キーストアファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/keystorefile   
↪ --set <キーストアファイル>
```

注釈: 「認証方式」の設定が「CustomTrust」の場合に設定してください。

- インストールパス (255 バイト以内)

インストールパス
C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\wlserver (既定値)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/installpath --set
↳ <インストールパス>
```

- 追加コマンドオプション (1023 バイト以内)

既定値: -Dwlst.offline.log=disable -Duser.language=en_US

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/parameters/option --set <追加コマンドオプション>
```

回復動作

- 回復対象

	回復対象	回復対象種別
ローカルサーバ	LocalServer	cls
全てのグループ ([All Groups])	""	grp
フェイルオーバーグループ名	(フェイルオーバーグループ名)	grp
グループリソース名	(グループリソース名)	rsc

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/relation/name --set <回復対象>
--nocheck
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/relation/type --set <回復対象種別>
↳ --nocheck
```

重要: 「回復対象」を「ローカルサーバ」に設定する場合

「最大再活性回数」, 「最大フェイルオーバー回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/restart
↳ --set 0
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/fo2
↳ --set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」, 「グループ停止 (2)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/action --set 1
```

重要: 「回復対象」を「全てのグループ ([All Groups])」に設定する場合

「最大再活性回数」を 0(回) に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/restart_
↪--set 0
```

変更前の「最終動作」が「リソース停止 (16)」の場合は「最終動作」を「何もしない (1)」に設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/action --set 1
```

- 回復スクリプト実行回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/script_
↪--set <設定値>
```

- 再活性前にスクリプトを実行する

再活性前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/preaction/userrestart_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最大再活性回数

既定値:0 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/threshold/restart_
↪--set <設定値>
```

- フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/usefailover_
↪--set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- フェイルオーバー先サーバ

フェイルオーバー先サーバ	設定値
安定動作サーバ (既定値)	1
最高プライオリティサーバ	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/mode --set <設定値>
```

- 最大フェイルオーバー回数

既定値:1 (最小値:0, 最大値:99)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/threshold/fo2 --set <設定値>
```

- 最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作前にスクリプトを実行する	設定値
実行する	1
実行しない (既定値)	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/use --set <設定値>
```

注釈: 「実行する」場合、「スクリプト設定」 - 「ファイル」を設定してください。

- 最終動作

最終動作	設定値
何もしない	1
リソース停止 ^{*92}	16
グループ停止 ^{*93}	2
クラスタサービス停止	3
クラスタサービス停止と OS シャットダウン (既定値)	4
クラスタサービス停止と OS 再起動	5
意図的なストップエラーの発生	6

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/action --set <設定値>
```

スクリプト設定

- ファイル種別

スクリプトファイル種別	設定値
この製品で作成したスクリプト (既定値)	1
ユーザアプリケーション	0

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/preaction/default_
↳ --set <設定値>
```

注釈: 本パラメータを変更する場合、「ファイル」も変更してください。

- ファイル (1023 バイト以内)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/preaction/path_
↳ --set <ファイル> --nocheck
```

注釈: 「この製品で作成したスクリプト」を設定する場合は **preaction.bat** を設定してください。

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wls@wls1/emergency/preaction/path_
↳ --set preaction.bat --nocheck
```

^{*92} 「回復対象種別」の設定が「cls」「grp」の場合は設定出来ません。

^{*93} 「回復対象種別」の設定が「cls」の場合は設定出来ません。

- タイムアウト (秒)

既定値:5 (最小値:1, 最大値:9999)

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/timeout_
```

```
↪ --set <設定値>
```

- 実行ユーザ

```
clpcfadm.py mod -t monitor/wlsw@wlsw1/emergency/preaction/account_
```

```
↪ --set <実行ユーザ>
```

8.50.3 WebLogic 監視リソースを削除する

モニタリソース種別、モニタリソース名を指定し削除してください。

```
clpcfadm.py del mon wlsw wlsw1
```


第 9 章

パスワードを暗号化した文字列を取得する

clpcfadm.py コマンドではパスワードを暗号化した文字列を取得できません。

以下の表を参照し「参照先」の操作を実施してください。

認証パスワード	参照先
Cluster WebUI 認証 (操作用) Cluster WebUI 認証 (参照用)	<i>Cluster WebUI</i> または <i>Cluster WebUI Offline</i> を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する
上記以外	<i>clpencrypt</i> コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

9.1 Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline を使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

以下の手順でパスワードを暗号化した文字列を取得してください。

1. 任意のクラスタ構成情報を Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline でインポートしてください。
2. Cluster WebUI または Cluster WebUI Offline で該当する項目のパスワードを設定してください。
3. [設定のエクスポート] をクリックし、任意のディレクトリにクラスタ構成情報を保存してください。
4. 上記で保存した zip ファイルを解凍し、clp.conf をテキストエディタで開いてください。
5. 該当するパスの値を確認してください。

例: Cluster WebUI 認証

```
<root>
  <webmgr>
    <security>
      <adminpwd>
        ↪ca978112ca1bbdcafacc231b39a23dc4da786eff8147c4e72b9807785afee48bb</
        ↪adminpwd>
      <userpwd>
        ↪3e23e8160039594a33894f6564e1b1348bbd7a0088d42c4acb73eeaed59c009d</
        ↪userpwd>
    </security>
  </webmgr>
</root>
```

操作用パスワード **ca978112ca1bbdcafacc231b39a23dc4da786eff8147c4e72b9807785afee48bb**

参照用パスワード **3e23e8160039594a33894f6564e1b1348bbd7a0088d42c4acb73eeaed59c009d**

9.2 clpencrypt コマンドを使用してパスワードを暗号化した文字列を取得する

以下のコマンドを実行し、パスワードを暗号化した文字列を取得してください。

```
clpencrypt <パスワード (平文)>
```


第 10 章

注意・制限事項

- 各パラメータに入力可能な文字列や禁則文字列は、『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の各章を参照してください。
- 任意のスクリプトファイルなどを指定する設定については、各サーバで同一のパスにファイルを配置してください。

例：モニタリソースの回復動作で指定する任意のスクリプトファイル

```
clpcfadm.py mod -t monitor/<モニタリソース種別>@<モニタリソース名>/  
↪emergency/preaction/path --set <任意のスクリプトファイル>
```

- 本ガイドに記載するコマンド実行例について、実行するシェルに応じてエスケープ文字が必要になる場合があります。

第 11 章

免責・法的通知

11.1 免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- 日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- 本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

11.2 商標情報

- CLUSTERPRO® は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Amazon Web Services およびすべての AWS 関連の商標、ならびにその他の AWS のグラフィック、ロゴ、ページヘッダー、ボタンアイコン、スクリプト、サービス名は、米国および/またはその他の国における、AWS の商標、登録商標またはトレードドレスです。
- Oracle、Oracle Database、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Apache Tomcat、Tomcat、Apache は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- Python は、Python Software Foundation の登録商標です。
- VMware、vCenter Server、vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。
- IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。
- WebSAM は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Google Cloud は、Google LLC の商標または登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第 12 章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2023/04/10	新規作成
2	2024/04/26	誤記修正

© Copyright NEC Corporation 2023. All rights reserved.